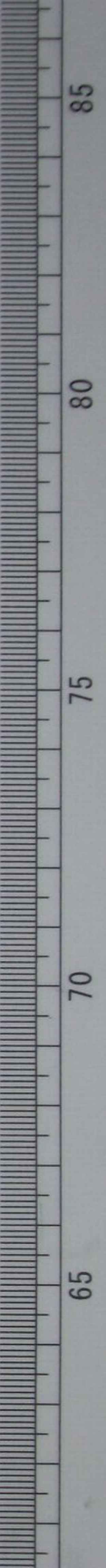


海外新聞

三

西垣文庫  
文庫 10  
7270  
2



海外新聞  
十一號



5741

特  
文庫10  
7270  
2

海外新聞十一号

横濱新聞ヨリ抄譯ス

天津ノ騷動

當夏第七月廿一日我六月廿三日天津市中ニ叛民蜂起シ攘夷ヲ口實トシ佛國ノコンシユル岡士同公使館ノ書記官僧官并ニ尼僧其外數人及ビ魯西亞人三名ヲミナソレ殲ニシ寺院ヲ毀チ學校ヲ燒キ狼藉至ラザルナシ實ニ前代稀ナル凶報ニテ輒近ノ一大變事トモ謂フベシ今其事ノ原由ヲ考フルニ此叛民ハ

海外新聞  
十一  
一  
大  
島  
南  
交

西  
垣  
文  
庫

皆支那ノ兇徒ニテ其性質頑陋ナルヨリ常ニ偏  
嫉ノ念ヲ懷キ外國人ヲ仇視スル事多年ナリシ  
カ近來支那政府ノ實權漸ク衰運ニ赴ルヨリ陰  
ニ其素願ヲ釀成セシモノナラン蓋シ近年佛國  
ヨリ僧尼ヲ派出シ遠洋ヲ航渡シテ此國ニ來リ  
學校ヲ設ケ寺院ヲ建テ支那ノ兒童ヲ教育スル  
事天津ノミニテモ既ニ四五百人ニ至レリ此輩  
教宗ヲ廣メ天恩ニ報スルガ為メト陽ニ唱ルト  
雖モ其實ハ陰ニ之ヲ假リテ私恩ヲ賣リ人心ヲ

得ンガ為メナルベシ早ク之ヲ除クニ如カレト  
例ノ東洋論ヲ唱ヘ此騷動ヲ釀シ竊ニ私計ヲ施  
サントノ宿謀ニテ蜂起シタル者カ故ニ其殘害  
ヲ為セル所皆佛人ノミヲ目當トシ魯人ニ至テ  
ハ全ク過テ害セルナラン既ニ其當日彼兇徒等  
英人ヲ捕ヘ其本國ヲ問ヒレニ英國ナリト答ケ  
レハ之ヲ助ケタリト云フ通常攘夷ノ論ノミナ  
ラバ洋人ヲ一概ニ仇視シテ彼是ノ差別ヲ問ベ  
キノ理無シ又土人ハ此蜂起ヲ前ヨリ知リタル

ト見ハ學校ノ児童凡四五十人許ナリレカ漸々  
退塾シ暴發ノ日ハ僅ニ二百人ニ過ス火災ニ  
罹リテ死タル者ハ此内三十人ナリトゾ思フニ  
支那ノ意中ハ佛人ノミヲ藏ニスル時ハ佛ヲ  
敵國トスル許リニテ自餘ノ外國ハ傍觀スル事  
ト臆斷セルナルミシ其愚モ亦憐ムシ

千八百七十年第九月八日我八月横濱刊行  
シヤツパンヘラルド新聞ヨリ抄譯ス

支那新聞

第七月三十一日我七月天津刊行北支那新聞  
ヨリ抄譯ス

佛蘭西ノ水師提督ハ本月廿三日我六月ニアス  
ピツク名号ノ砲船ニ乘リテ天津ニ来着シ英吉  
利ノ水師提督ハ同廿四日我六月廿六日  
ノ快船ニ乘リテ此地ニ来着シ英國公使ウエー

下氏ハ本月廿七日我六月廿九日早天ニ亦此地ニ来着  
レテ英國ノ岡士館コリスニ滞在シ同廿八日我七月七日甲  
必丹テイロル氏ノ指揮スル米利堅アヒエロツ  
ト名号ノ兵船ハ英人ノ居留地ニ近キ港内ニ碇  
泊シタリ

前條ニ記スル所ノ各國官員ハ相互ニ尋問シ且  
其地ノチエニホウ支那ノヲ尋問シタリ蓋シ此  
事ハ此地ノチエニコウハ支那ノノ管掌ス可  
キナレバ其者ハ本月廿日我六月廿二日ヨリ疾ニ罹リ

其職務ヲ行フヲ能ハサルニヨリ各國ノ官員ハ  
皆今度ノ諸事ヲ此チエニホウニ談話セリト又  
此地ニ在ル支那ノ官吏ハ去ル廿一日我六月廿二日天  
主教ノ僧徒ヲ殺害セシヲニ管係シタル犯人ヲ  
逮捕スルヲニ最モ心ヲ尽シタル旨ヲ自カラ述  
ヘシ由ナレトモ未タ其犯人ヲ獲タル消息ヲ聞  
カス思フニ其殺害ノ時ノ首謀者ノ姓名ハ分明  
ナラスト雖モ支那人ニ於テハ必ス之ヲ知ル者  
多カル可キヲ以テ之ヲ搜索スルヲ難キニ非サ

海下新聞 四 大星南文

ル可シ又其殺害ノ時天津ニ在リシチフウチヒ  
共ニ支那ノ官吏ヲ吟味シテ罰ス可キカ為  
メニ速カニ之ヲ刑局ニ解送ス可キ理ナルニ未  
タ其者ヲ解送シタリシコトヲ聞カサリシ  
佛國公使ヨリ天津ノチフウ及ヒチヒン等ノ頭  
ヲ刎子且天主教ノ僧徒ヲ殺害セシ時陽ニ兵器  
ヲ買ヘルノ名ヲ以テ天津ニ在留セシ支那陝西  
ノ陸軍督帥チエンコウシユイノ頭ヲモ亦刎子  
可シトノ求ヲ為タリト云ヘリ然ルニ支那ノ長

官等ニ於テハ其者天津地方ノ権ヲ握リシ者ニ  
非スレテ且此僧徒ヲ殺害シタルノ時ハ唯其地  
ニ滞在セシノミニシテ更ニ其事ニ管係シタル  
コト無キニ因リ之ヲ刎首スルコトハ法律ニ背キタ  
ルトノ道理ヲ述ヘ佛國公使ノ言送リシコトヲ拒  
ミタル由ナリ察スルニ此者ハ當時既ニ天津ヲ  
去リテ陝西ニ歸リシナル可ク且其嘗テ賊兵ト  
戦ヒ大ニ戦功ヲ奏セシヨリ支那人ノ最モ尊重  
スル人ナリシトナリ

佛國公使ハ思フニ支那政府ニ手切ノ書簡ヲ贈ル可キ以前ニ其本國ヨリ命令書ノ來着スルヲ期望ス可キナレ氏天津ニ在リシ支那ノ官吏ヲ罰シ僧徒ヲ殺害セシトニ管シタル犯人ヲ逮捕シテ之ヲ刑ニ處シ且天主教ノ僧徒ノ居住セシ家屋ヲ再造セシム可キト等ノ諸事ハ其本國ノ命ニ管セス必ス之ヲ行フ可キトナルカ故ニ其日後支那政府ニ討索ス可キ條件ニ管ハラス既ニ此等ノ諸事ヲ行ハシム可キノ談判ヲハ為シ

タリト又佛國公使ニ於テ此度天主教ノ僧徒ヲ殺害シタル一難事ヲ了スルトハ極メテ處シ難キトニシテ其公使ハ智カヲ盡シ之ヲ勉勵ス可ク且其公使ハ固ヨリ支那政府ニ自國政府ノ手切ノ書簡ヲ贈ル可キ以前本國ヨリ命令書ノ來ルヲ待ツト必用ナルヲ思量ス可キ所ト雖モ夫迄ノ時間ニ内外ノ貿易交際等ノ諸事ニ付キ皆大ニ阻礙ヲ受ルトアル可キカ為支那ノ尊重ノ官吏ニ於テ能ク此一難事ノ重大ナルトヲ了解



シ速ニ正理ノ裁判ヲ執行フ可キト是衆人ノ期  
望スル所ナリ

天津ヨリ近頃得タル所ノ新聞ハ甚々快カラサ  
ル者ト謂フベシ其故ハ支那ノ官吏ハ此度ノ犯  
人ヲ搜索スルトニカヲ盡セシトヲ述ルト雖モ  
未タ其犯人ヲ罰スルノ處置ハ少シモ撻取ル  
無ク既ニ僧徒ヲ殺害セシ後七週間ヲ経テ且其  
首謀ノ者モ天津ニ在ル諸人ノ普ク知リシ所ナ  
ル可キニ未タ一人モ之ヲ罰セシト無ク加之其

時ノ官吏ハ唯之ヲ退任セシメシノミニシテ未  
タ之ヲ罰セシトヲ聞カス蓋シ方今支那ノ威權  
ヲ握リ外國人ヲ恧ハノ黨ハ他ノ方法ヲ以テ其  
償ヲ為ス可キノ許諾ヲ為スコシト雖モ意フニ  
其官吏ヲ刑ニ行フカ如キハ必ス之ヲ許諾セザ  
ル可シ尤モ當時支那ノ尊重ナル官員中ノ一二  
人ハ此事ノ危難ニ至ル可キヲ預知スルノ智ヲ  
リト雖モ多クハ皆之ヲ拒マント欲スルノ意ヲ  
確定シタリレ由ナリ又佛國公使ハ其支那政府

ニ求メシ所ヲ必ス行フ可キノ決定ヲ為シ既ニ  
小時間ニ支那政府ヨリ其決答ヲ為ス可キヲ  
言送りタル由ナリ

此度支那政府ニテ甚シク外國人ヲ嫉惡セシモ  
一チヤンヒート云フ者ヲ天津ノ官吏ニ補シタ  
ルハ是其外國人ヲ嫉惡スル黨ノ權威ノ盛ナル  
ニ至ル可キ前兆ト謂フヘシ又此度数千ノ扇ヲ  
造リテ佛國ノ岡士ヲ屠殺シ其岡士館ヲ燒キテ  
支那人ノ味誇リタル模様ヲ畫キ專ラ之ヲ天津

ニ流布セシメ其扇ハ製方甚タ醜ク粗末ナル竹  
ト尋常ノ紙トヲ用ヒ造リタルモノニシテ其價  
ハ僅カニ銅錢四五十文ニ賣リ鬻ケリ蓋シ此扇  
ハ天主教ノ僧徒及ヒ他ノ佛蘭西人等ヲ屠殺シ  
タル記念ノ為メ造リタルモノニシテ外國人三  
人ヲ支那人等ノ群集シテ襲フタル模様ト天主  
堂ヲ焚滅スルノ模様ト支那人ノ小艇ニ乗り河  
ヲ越ヘテ外國人ヲ襲卻スル者ニ應援ヲ為スノ  
模様トヲ畫キタリ又外國人ハ赤色ノ襦袢ヲ以

テ支那人トノ差別ヲ為シ其中一人佛國ノ岡士  
館ヲ出テ走ル時之ヲ追フノ模様ヲ畫キ且チヒ  
シノ官榻ニ踞シテ此動搖ヲ目撃スルノ模様ヲ  
モ畫キタリ又佛國ノ僧尼ヲ屠殺スルノ模様ヲ  
畫キタル他ノ扇ハ當時專ラ之ヲ製造スル由ナリ  
英國公使ウエード氏天津ニ至リシニ因リ今度  
亂妨ヲ為セシトハ預メ企テシトヨリ起リシト  
彼地方ノ形勢ノ危殆ナルトヲ知リタリト云ヒ  
且其公使ノ家ハ北京ニ近キ山側ニ在リシカ来

テ其家ニ入り又天津ニテ其公使ニ向ヒ未タ  
ヲ擲ツニ至ラサリシカ既ニ之ヲ擲ントシテ其  
石ヲ拾ヒ取リタル者アル由ナリ又支那ノ兵卒  
ハ日ニ屯聚スルノ風説次第ニ確定シ特ニリヒ  
エシキヤン<sub>支那人ノ名</sub>ノ督スル所ノ大軍ノ天津ニ  
迫ツク可キ説モ日ヲ逐ヒ分明ニシテ既ニ其先  
鋒ハ天津ノ近傍ノ地ニ進ミ北江ニ在ル外國船  
ノ檣頭ヨリハ許多ノ兵士ノ屯聚シタルヲ望見  
シタルト云ヘル説アリテ支那人ノ戦ヲ為サン

トスル備ヲ設ケレテ皆人ノ信スル所ナリ故ニ  
天津ノ近傍ニアル支那ノ兵ハ未ダ其多少ヲ十  
分ニ知ルレ能ワズト雖モ必ス其數許多ナルト  
コ計リ知ル可シトナリ

支那キヒマンノ土人等近日又甚ダ動搖ヲ為シ  
外國人ノ居レル寺院ヲ燒拂ヒ外國人ヲ殺害追  
攘セントスルノ風説專ラナリレカバ其地ノ  
支那ノ官ヨリ告諭ヲ出シ外國人ノ支那ノ  
見童ヲ官名引ヒシト云ヘルハ全ク偽リニテ其實

ハ支那ノ無籍無賴者ノ所為ヨリ出ルナレバ聊  
モ外國人ニ管係シタルヲ無シ故ニ外國人ニ對  
シ害ヲ為サントスル者ハ嚴シク之ヲ罰ス可シ  
ト布令セシヨリ人心漸ク鎮定シタリ

サイタルト云ヘル新聞ニ江西ノ鎮台千ニ千ニ  
エント云ヘル者外國ノ事情ニ通曉セルノ譽ア  
ルヲ以テ今度ノ一大事變ヲ區處ス可キカ為ニ  
北京ニ來ル可キノ命ヲ受ケタルヲ記シタリ  
其人北京ニ到ルニ蒸氣船ヲ以テスル時ハ僅ニ

十日ヲ期シテ達ス可シト雖氏支那ノ法式ニ從  
ヒ必ス陸地ヨリスル時ハ雨天等ニテ時日ヲ費  
スヲ以テ一月間ニ達スル時ハ最モ速カナリト  
ス因テ北京ニ到レル事ハ此者ニ於テ甚々快シ  
トセサル可シ

歐羅巴戦争ノ新聞ニ依リ支那人以為ヘラク佛  
蘭西ニテハ本國ノ兵務多事ナルヲ以テ遂ニ我  
支那ニ兵隊ヲ送ルヲ能ハザルベシト自然自恃  
ムノ意ヲ生レタリ元來支那ニテ佛國へ對シ償

ヲ為ス可キハ正理ヲ履ムノ意ニ出ルニ非スシ  
テ全ク後禍ヲ懼ルニ在リ故ニ斯ク佛國ヨリ  
兵ヲ送ルヲ能ハジト思ヘル時ハ或ハ佛國ノ求  
メヲ拒絶センヲモ計リ難シサレバ支那人ヲシ  
テ自カラ恃ムノ意ヲ除去セシメント急務タル  
ベキニ因リ若シ方今佛國ハ其國事ニ付キ兵ヲ  
送ルヲ能ハザレハ他國ヨリ上海ニ兵ヲ送り支  
那人等ヲ恐怖セシメ其暴行ヲ為スヲ能ハサラ  
シムルヲ緊要タリ其何事モ微ヲ防キ漸ヲ絶ツ

ニ在レバ害有テ後之ヲ治メンヨリハ寧口害無  
ランウチニ之ヲ防カンニハ如シ

千八百七十年第九月九日 我八月十四日横濱刊行  
エコー、ジユ、ジヤツポン新聞ヨリ抄譯ス

支那新聞

千八百七十年第八月廿五日 我七月廿九日上海ヨ  
リノ報告

南京ノ亞王ヲ殺害セントシタル者有リシニ付  
キ其地ノ人心之ガ為メニ大ニ動揺シタリ其事  
ハ本月廿二日 我七月廿三日 我七月廿七日ニ有リシ  
ナルカ亞王ノ受ケシ創傷ハ劇シクシテ猶生存  
スト雖氏性命ハ既ニ呼吸ノ間ニ在リ支那人ハ  
務メテ此事ヲ密ニ隱微ニセントシタリシ蓋シ  
此事ノ原由ハ未タ分明ナラスト雖氏亞王ノ支  
配地ニ於テモ天津ト同時ニ外國人ヲ虐殺セン  
ト党ヲ結ビシ者アリシヲ此王ノ抑制シタルニ

因レルモノナラントナリ此暴行ヲ為セシ者ハ  
山東人ナル由ナリシカ其者何等ノ故ニ亞王ヲ  
殺サント為モシヤ未夕白状ニ及バザリシ然ル  
ニ初メ南京ニ頑手タル學生ノ許多来リシヨリ  
亞王ノ権衰ヘシカバ此者若シ白状ヲ為スニ於  
テハ如何ノ害ヲ生ス可キヤモ計リ難シト皆恐  
怖スル所ナリ  
北京ニ於テ外國人ト支那人トノ交際動モスレ  
バ穩ナラズ其故ハ上等ノ権ヲ有スル者ヨリ支

那人ヲシテ外國人ヲ嫉クムノ意ヲ挑唆スレバ  
ナリ又北京ニ在ル天主教ノ僧尼ハ支那人ノ為  
メニ恐迫ヲ受シカトモ未夕現ニ害ヲ被リシ者  
有ル一無シ然ルニ支那ノ政府ヨリハ天主堂及  
ヒ僧尼ノ居屋近キ家毎ニ兵士四人下役一人ヲ  
備フルニ至リシハ全ク騷擾ヲ豫防スルニ在リ  
ト見ヘタリ且去ル廿二日我七月ニ千千ユ支那  
名ノ姓名ヲ記シタル皇后ヨリ下セシト思ハル  
、布令書ヲ諸所ニ粘附シ取締役人及ヒ番兵等

ヲシテ北京市中ニ流布スル風説ヲ嚴禁セシメ  
之カ監察ヲ為ス可キ旨ヲ命シタリ

第九月十二日我八月十七日刊行同上新聞ヨリ抄譯

ス

北支那新聞中ノ芝罘ノ模様ヲ記シタル箇條ニ  
以太利ノプリンシペッサクロチルダ名号ノ兵船  
日本ヨリ芝罘ニ來著シ佛蘭西ウエニユス名号  
兵船ノ側ニ碇泊セシカ互ニ祝砲ヲ發シタリ又  
支那ノ皇帝ゼホルニ向ヒ發シタルトノ説アリ

シカ全クノ確信ニハアラサリシ

山東ヨリ得タル新聞ニ外國教師等支那人ニ辱  
シメラレ磔ヲ以テ投ケラレ又禮拜堂ヘモ是等  
ノ暴舉ヲ受ケシカハ其住居スル都府ヲ支那人  
ニ檢出セラレサル様密ニ去リテ傍近ノ村落ニ  
退ント決シタリ其後ノ報告ニ其地ノ道台北京  
ヨリ其人民ノ外國人ニ對シテ不敬ヲ加フ可カ  
ラサルノ處置ヲ為ス可シトノ命ヲ受ケタリト  
ナリ



海外新聞  
二  
本學  
南  
木

海外新聞十一号畢

海外新聞十二號

千八百七十年第九月二十日我八月廿五日橫濱刊  
行シヤツパンメイル新聞附録ヨリ抄譯々

傳信機ノ報告

米利堅ノ飛脚船グレイトレピエブリック香港ヨ  
リ來著セシヨリ左ノ傳信機ノ報告ヲ得タリ此  
報告中既ニ前号ニ記シタルモノアリ大同小異  
ト雖モ重複ヲ厭ハズ今又此号ニ記セリ  
第八月十九日我七月廿三日英ト印度トノ間ノ傳信線

毎小月

ヨリ達ス普王ノ傳信機ヲ以テ報告セルハ佛兵  
 去ル木曜日我七月廿二日我兵ノ為ニベイヤンウ井ル  
 ノ近傍ニテ大ニ敗ぬシマツツニ追卻セラレ巴勒  
 トノ往來ヲ断截サレタリ此ベイヤンウ井ル  
 ト第十号ニ記スル  
 所ノレガシム井ルト同地ニ  
 シテ其戦モホ同戦ナル可シ  
 第八月二十日我七月廿四日夕第六字印度ト歐羅巴ト  
 ノ間ノ傳信線ヨリ報ズ本日佛ノ議院ニ於テ  
 シトバリコラ氏ノ云ルニハ普兵一昨日大捷ヲ  
 獲タリト云ル普ノ報告ハ妄説ニシテ其時普兵

三隊ケツクシツクヲ襲ヒシガ却テ追攘セラレ  
 ヲニ至レリト○巴勒府ヲ防守ス可キノ委任ヲ  
 受ケタル官吏ハ方今大ニ奮勵シテ之ニ從事セ  
 リ○佛ノ政府ハ戦ヒニ敗北ヲ取ルル有可シト  
 畏ル、ト無ク不日ニ國運隆盛ニ赴キ最好ノ形  
 勢ニ至ル可キヲヲ信用セリ  
 同日倫敦ヨリ普ノ兵隊泥河岸ノケールノ近傍  
 ヲワスト、ラスグール城佛名ヲ火攻ニ及バル  
 昨日ヨリ始マレリ

去ル木曜日我七月廿二日、ベイヤンウ井ル、戦ハ九  
 時間ナリシ佛兵ハ持ニ堅固ナル備ヲ為シタリ  
 シカトモ遂ニ普兵ノ為ニ進撃セラレタリ此戦  
 ヒニ付未ダ仏ノ報告ヲ得ルヲ無シ  
 第八月廿一日我七月廿五日巴勒ヨリ今日ハ未ダ戦、  
 新報ヲ得ハ、ナカリシ  
 仏政府ニテ七万五千ヲランク、金高ヲ借入  
 レントノ舉アリシガ本日ヨリ其收納ヲ始メタ  
 リ

同日倫敦ヨリ魯西亞ノ傳信線ヨリ報ス、メツツト  
 シヤロントノ間ノ往来殊ニ梗塞シマレシヤル  
 バセイヌトマレシヤルマクマホント互ニ音信ヲ  
 通スルニ十八時間ヲ費シタリ  
 普ノ太子ハ次第ニ其兵ヲ進テウエリイウイトリ  
 引坎ニ迫リ仏將マレシヤルマクマホントノ指揮  
 シテシヤロントニ在ル兵ト一戦アラントヲ時々  
 刺々待居ル所ナリト号ニ普ノ太子仏ノ為メニ  
 由ヲ記セシガ今此新聞ニ依ルニトノ事疑ヲ可キ  
 時ハ果シテ傳聞ノ誤ナル可シ

毎ト

拿破崙帝及ヒ太子ハ今シヤロニニ在リ

同日倫敦ヨリ伯靈ノ官報ニ仏ノ本軍ハ木曜日

我七月ノ戦ヒ後ニメツノ城中ニ引退キタリト

云フ此戦ニハ普兵傷損甚多カリシ

ハルスブルハ普兵ニ降レリ

本日ポントムウソノ報告ニ本月十四日

我七月十六日我七月十八日我七月廿二日ノ戦

ニテ仏兵ノ損失ハ死傷生擒ヲ合セテ其數五万

人ニ及ヘリト且十八日我七月廿二日ノ戦ニハ一日ニ

レテ敵ニ生擒セラレシ者四千人有リト云フ事

ハ第十号ニ記スル者ト異ナルヲ無シ

第八月二十二日我七月廿六日巴勒ヨリ官報ニ左ノ事

ヲ記シタリ近日傳信線ノ報告止リシヨリ政府

ニ於テ二日間萊尼河邊ヨリ兵士ノ音信ヲ得ル

トナキヲ以テマレシヤルハセイヌハ其行ハン

トセシ謀計ヲ未タ施サ、リシト思ハル、ト○

敵ノ斥候兵セインチミエルニ至レリ○皇族

リンスナポレランハ昨日フロレンス府ニ来着

シタリト

同日倫敦ヨリ伯靈ニ在ルタイムス新聞ノ報告者ヨリ傳信機ヲ以テ言送リケルハ英國女主ウイクトリヤハ仙ノ皇后ユウゼニヨリ送レル書翰ニ一週前ニ返答ニ及ヒシガ其文ニ今度ノ戦ニ付我英ノ政府ニテ之カ勸解ヲ為ントスルヲ未タ其機會ニ至ラサルト思ヘルハ歎息ニ堪ヘス且ツ我カ政府ハアルサース及ヒロルレイ  
此ニ州普真ノ政ヲ取リシ地ナル可レ 仙普兩國間ニ於テ獨立

國ト為リント欲スト雖此此事ハ日耳曼ニ於テ快カラサル可レト思ヘル等ノ事ヲ記シタリ但シ日耳曼ノ新聞紙ニハ皆此ニ州ヲ以テ日耳曼ノ地ニ附屬セシム可キヲ欲シタリ  
 近日ノ戦争ニテ日耳曼人ノ損失四万人ニ及ヒタリ  
 以太利ハ佛ニ左祖スベシトノ條約ヲ結ビタルニ付キ羅馬ニ在ル日耳曼ノ公使此地ヲ去テカ  
 フレテニ赴キタリ

同日午後英ト印上トノ間ノ傳信線ヨリ報ス十  
八日我七月廿二日ノ戦ニ付普ノ官報ニ普ノ親兵及ヒ  
第七番隊ハ佛將レレマクマホニガ率ヒ  
タル兵ヲ除ケルノ外佛ノ全軍ト戦ヒニ及ヒタ  
リ又佛將ゼ子ヲレハイリイハ城寨ニ齊シク  
堅固ノ備ヘヲ為シ防守シタリレダ夕時ニ至リ  
普兵敵ノ守レル高地ヲ攻取リ佛兵數千人ヲ生  
擒シタリ

同日午後倫敦ヨリ日曜日我七月廿五日ノ夕巴勒ヨリ

傳信機ノ報告ニ佛兵シヤロシニ陣營ヲ設ケ兵  
士マルマ河岸ニ屯集シタリ○普ノ太子率ユル  
所ノ兵數十五万人既ニセイインヂ、エルノ近傍  
ニ至リシト云ヘル風説アリ  
普ノ太子ハヲウベ河邊ノ地ヲ過リテ巴勒ノ方  
ニ進マントセリ○十九日我七月廿三日ノウエルヂユ  
ンヨリノ報告ニ普兵ノ先鋒ハ次第ニウエルヂ  
ユンニ接近セリト  
佛ノ報告ニ佛兵ノ損失ハ十六日我七月廿日ノ戦ニ

戦死シタル者ヲ除キ傷兵ノ数一万五千人ニ及  
ベリト云フ

同日倫敦ヨリ魯西亞ノ傳信線ヨリ報ス佛人ル  
イブランヨリノ書ニ佛ハ其國ノ共和政治党ノ  
者ノ為ニ偏ニ其國事ヲ思慮シ日耳曼ト共ニ  
互ニ名ヲ墜シ辱ヲ受ケサル様和議ヲ講シ國民  
互ニ兄弟ノ交ヲ結フ可キヲ言送ル可シトノ  
事ヲ記シタリ○ウエルヂェンノ防禦ノ備ハ不  
十分ナルニ普ノ先鋒ハ次第ニ此地ニ接迫セリ

第八月廿三日此月倫敦ヨリ魯西亞ノ傳信  
線ヨリ報ス

巴勒ノ英國公使館ニ各國ノ公使等數度集會シ  
好機會アル時ハ佛普兩國ヲ勸解ヒニトヲ謀レ  
リ  
以太利ノ外國事務執政ヨリ議院ニ述ケルハ  
英魯ノ三國ニ於テハ互ニ預メ商議シテ一決ス  
ルニ非レバ佛普兩國ノ勸解ヲ為スル無ル可シ  
ト契約ニ及ヒタリト

同日倫敦ヨリ英ト印度トノ間ノ傳信線ヨリ報  
 (ズ)アンデパンダンス、ベルジユ新聞ニ英魯ノ二  
 國ハ普ノ佛ノ地ヲ分チ取ラントスルヲ拒ム  
 へシトノ事ヲ一致シタリト云へリ  
 佛將トロレユウヨリ此度ノ戰ニ就キ巴勒府民  
 強悍勇カト報國誠忠トヲ偏ニ倚頼スルトノ  
 布令ヲ出セシヨリ大ニ其府民ヲ奮發セシメタ  
 リ  
 佛政府ニテ借り入レシタル七萬五千萬フ

ランクノ金高ハ既ニ全ク收受スルヲ得タリ  
 米利堅大統領グラント氏ヨリ其國ハ嚴シク中  
 立ノ法ヲ遵守ス可キヲ布令シタリ  
 第八月廿四日我七月倫敦ヨリ魯西亞ノ傳信線  
 ヨリ報スタイムス新聞ニ佛ノ皇后エヴゼニ  
 ハ英ノ女主ウクトリヤニ勸解ノ事ヲ乞ヒシ  
 且以太利ノ佛ニ與シタルト云へルハ共ニ妄説  
 ナルヲ記シタリ  
 バロシレセツ此人ハ蘇七峽ノ堀ニ英ノ尊重  
 割ヲ為セ者ナリ



ナル爵位ヲ與ヘタリ

同日倫敦ヨリ英ト印度トノ傳信線ヨリ報ス佛  
兵ノ本陣ハレイムニ在リト

佛將ゼ子ラールコンデハツツノ近傍ニテ十五

萬人ノ兵士ヲ集メタリシガ外ニ應援ノ兵ナカ

リシ然レトモマレシヤルバゼイヌノ兵ハマレ

シヤルマクマホニノ兵ト日々互ニ音信ヲ通ジ

タリ

普ノ太子ノ兵ニ付未ダ新報ヲ得ズ

ハルスブールノ普兵ニ降レリト云ヘル説ハ未  
タ信否ヲ知ラス

佛ノ執政ラツウルヲウベル又氏ヨリ中立諸國

ニ報告シケルハ佛ニ於テハ普兵ノ一人タリト

モ其國ノ境内ニ在ル間ハ縱令中立國ヨリノ勸

解アリトモ之ヲ兼諾セスト

十八日我七月廿二日ノ戦ノ後八日耳曼兵ノ舉動ヲ知

ルヲ無シ

佛ノ新聞紙ニハ其國ノ形勢次第ニ利運ニ赴カ

キトスルヲ期セリトノ意ヲ記シタリ

第八月廿五日我七月廿九日倫敦ヨリ普ノ騎兵ハアリ

アソニ至レリ○普兵ハシヤロンニ向テ進行セ

リ○普ノ王族フレデリック、チヤアレスノ兵ハセ

イニ、ヂッエルニ在リ○ツウル城ハ猶普兵ニ降

レルヲ為サズ○普兵又バル、ル、ヂユツクニ在リ

○職業又ハ定マレル生計ノ無キ者ハ巴勒ヨリ

之ヲ放逐シタリ

ストラスブール城ハ普兵ノ火攻ノ為メニ追々

破壊ニ及ヘリ

佛ニテ國ヲ守禦ス可キ番兵百レシメノト隊ヲ

直ニ戦ニ従事スル兵中ニ加入シ又老兵拾五方

人ハ里昂府ニ集メ又八万人ハ巴勒ニ屯集セシ

メタリ

同日倫敦ヨリ印度ト歐羅巴トノ間ノ傳信線ヨ

リ報ス彼得堡ノ官報ニ前述セルアンデパンダ

ンス、ベルジュ新聞ノ説ヲ傳聞ノ謬トシテ云ハ

ルハ元來魯西亞ハ普ノ佛ノ地ヲ侵掠シテ之ヲ領

スルヲ欲セズト雖モ亦之ヲ拒ンカ為メニ英  
ト高議ヲ為スヲモ欲セザリシト  
ストラスブルヲ攻ムル普兵既ニ其城外千ヤ  
ルト迫進テ接迫シ既ニ其郭外ニ在ル蒸氣車役  
所ヲ棄掠シタリ  
佛ニテ若シ巴勒ヲ敵兵ニ攻圍ムル、時ハ防戦  
ヲ為シトシテ預メ城寨ヲ堅固ニシ兵糧等ノ用  
意ニ至ルマテ大畧完備シタリ  
同日巴勒ヨリ英ト印土トノ傳信線ヨリ報ス佛

將マレシヤルマクマホンハレームヲ去リタリ  
此將ハマレシヤルバセイヌト互ニ相應援シテ  
戦ヲ為サントセリ  
普ノ斥候兵マルメ州及ヒオウズ州等ノ地ニ至  
レリ  
佛ノ政府ハ普ニテ其傷兵ヲ搬運シテ比利時及  
ヒ盧森堡ヲ過リタルハ其中立ヲ破リシナル旨  
ヲ嚴シク論難ニ及ヒタリ又佛政府ニテ婚姻ヲ  
結ベル者ト否トヲ問ハズ二十五歳ヨリ三十五

歳ニ至レルマテノ舊兵士ノ先年中兵役ヲ招募シ

且六十歳ニ至ルマテノ士官及ヒ七十歳ニ至レ

ルノ将帥ヲ呼出サントノ議案ヲ議院ニ出シタ

官報ニ普ノ兵候兵マル又州ニ進ンテ遂ニシヤ

ロニニ至リワツシイノ地方ヲ獲タリ佛ニテハ

盡カシテ其行進ヲ拒防スベシトノ命ヲ下シタ

第八月廿六日 我七月 倫敦 水曜日 我七月二

ニバルル、ヂユツクヨリ得タル報告ニ敵兵普兵ノ

シヤロンヲ引拂ヒシヨリ我兵其地ニ向テ進發

セリト

昨日巴勒ヨリノ報告ニマレシヤルマクマホシ

ノ率ヒタル全軍八月曜日 我七月 廿六日ニレイムヲ去

リマレシヤルバセイ又ノ兵ヲ援ケントシテ進

メリト

巴勒防守ノ備ヲ為ス任ヲ受ケタル官吏ハ普兵

ノ進迫ラントスル以前ニセイヌ、エー、マル又州

海卜所月

十二

ノ田穀等ヲ燒カントノ決議ニ及ヒタリ

千八百七十年第九月二十日我八月廿五日横濱刊

行エコージユ、ヂヤッポシ新聞附録ヨリ抄譯

ス  
リユカテル傳信線ヨリノ報告

第八月二十六日我七月三十日巴勒ヨリ官報ニハル

ブルニ於テハ猶敵兵ヲ防キ之カ襲撃ヲ兩度

追却シタリ

普ノ斥候兵ハレイムヨリ十里英法許ノ所ニ至レ

リ

普ノ大軍ウエルゲエノ周囲ニ在リ

普ノ太子ハ追々巴勒ニ向テ進發セリ

巴勒ノ防守委任ノ官吏ハ若シ敵ニ困ルノ患

アラバ防戦ヲ為ス可キノ備ニ及ビタリ

第八月廿七日我八月朔日倫敦ヨリ普ノ官報ニ仏ノ

マレシヤルバセイマノムツヲ引退キタリト云

ヘルハ傳聞ノ誤ニシテ其実ハ食糧等ノ乏シキ

カ為メニ多クハ普兵ニ降ル可シトナリ

普人ハ十八日我七月廿二日ノ戦ニ於テ仏兵ノ損失シ

タルト凡ソ二万三千人ナル可シト云ハリ

ムツニ在ル傷痍人ノ内ニ熱病ヲ発シタリ

普兵速カニ巴勒ニ向テ進行セリ

同日倫敦ヨリ普兵ノ先鋒ハ既ニミヤロントエ

ペル子イトノ間ニ至レリ仏將マレシヤルマク

マホンハウージエールノ方ニ至リシガ今ニ至

リテ其新聞ヲ得ルノ無シ又仏帝ハ其後ヨリ進

發シタリ

日耳曼ノ第四番ノ兵ヲ方今サキソニ一國王子

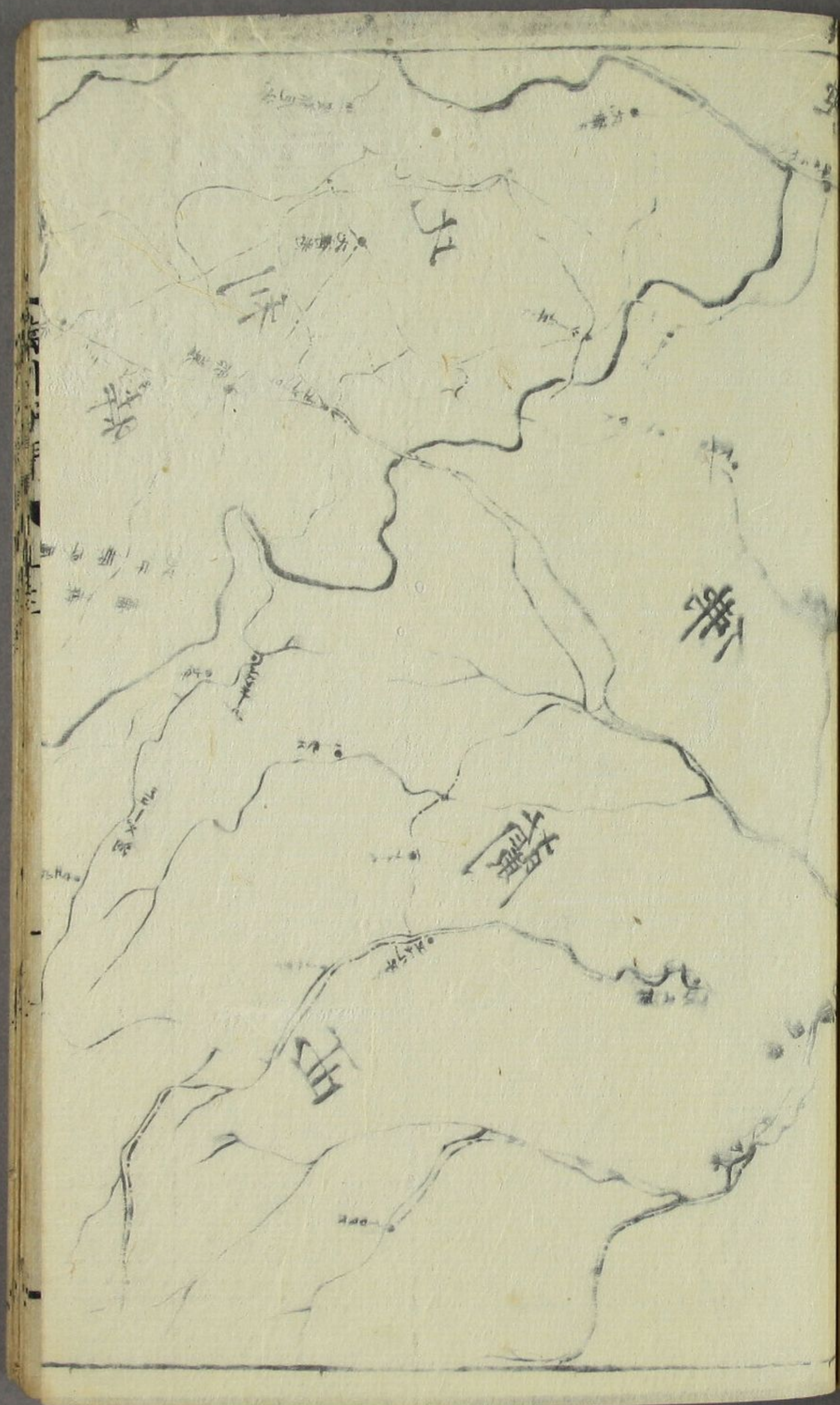
指揮ニテ募集ス

同日横濱刊行ジヤツパンニハラルト新聞ニ記セ  
ルハ香港ヨリ飛脚船ノ出帆スルニ就キ急ニ出  
シタル松ノ書翰ニ普兵シヤロニテ大ニ敗北  
セシト云ヘルヲ記載シタリ其詳細ノ事ハ之  
ヲ知ラサリシトナリ

千八百七十年第九月十六日 我ハ月ニ横濱

刊行ジヤツパンニハラルト新聞ヨリ抄譯ス

今朝神戸ヨリ届キタル書翰ニ記セルハノウチ  
リユス名号船支那ヨリ来著シタルニ就キキク  
タヨリ達シタル新聞ヲ得タリト其新聞ニ仏ノ  
海軍バルチツク海ニテ普ノ海軍ト戦ヒ勝利ヲ  
獲タルト及ヒメツツニテ大戦アリテ仏普双方共  
ニ夥多ノ損失アリシカ後遂ニ普兵メツツヨリ追  
却セラレタリト○此新聞ハ大略ヲ記スルノミ

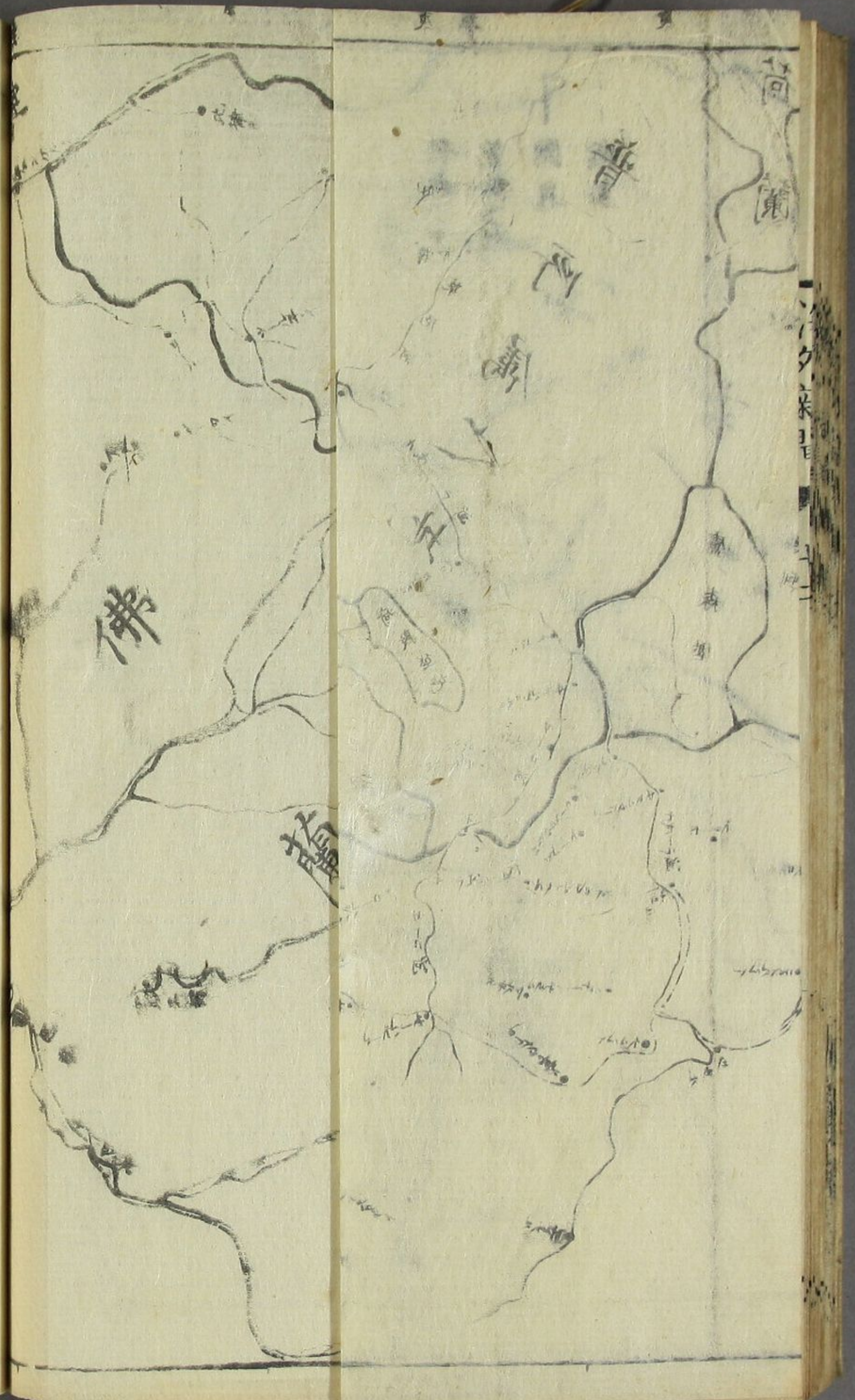


海外新聞 十二

ニシテ其信否甚々疑シト雖モ唯風説ノ終ヲ此  
ニ記シタリ

海外新聞十二号終





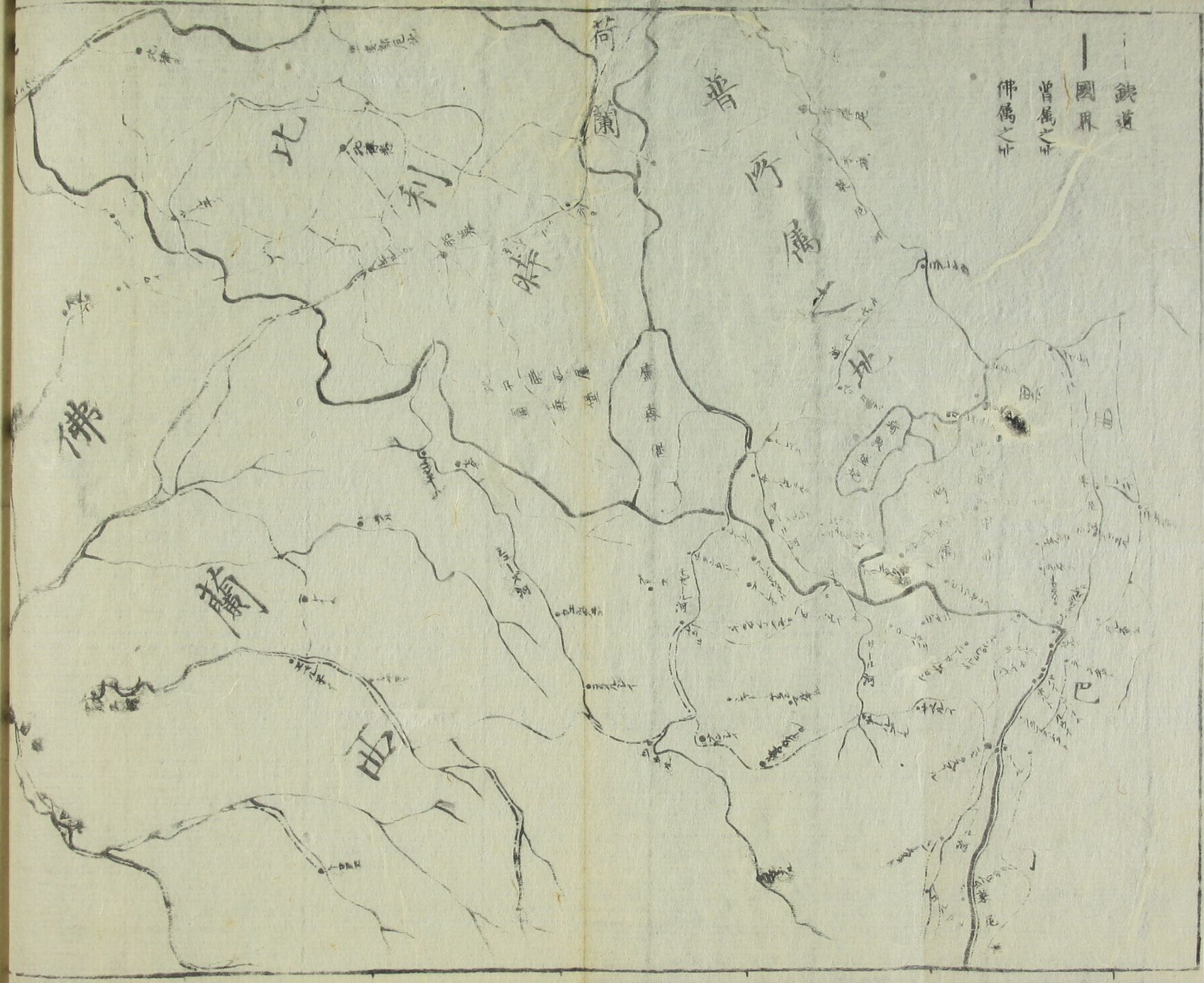
海外新聞十三號

千八百七十年九月三日 我八月 米利堅 蘇方

西<sup>ス</sup>斯哥每週新聞ヨリ抄譯ス

一週日間ノ戦争畧記

メツツ近傍ノ戦争ノ事ニ付諸説ヲ集メテ今茲ニ  
 記セシ者ハ讀者ノ為メニ戦ノ景状ニ於ル概畧  
 ヲ通覽セシメン<sup>ト</sup>ヲ欲スルニ在ルノミ固ヨリ  
 急成ヲ主トスレハ行文ノ可否ハ幸ニ咎ル<sup>ト</sup>勿



海外新聞十三號

千八百七十年九月三日  
 我八月  
 米利堅  
 萊方  
 西斯哥每週新聞ヨリ抄譯ス  
 一週日間ノ戦争畧記

佛帝ノ退軍

ウエルヂュンノ方へ引退カント佛將バゼー又ハ斥  
 候ヲ出シテ道路ノ妨害無キヲ察セシヨリ佛帝  
 拿破崙ニハ八月十四日我七月十八日午後二時ニメツ  
 ヲ發シ西北ノ方十三里英法以コンフランニ  
 泊シ翌日曜日十九十里進ニテエテイニ於テ  
 朝食シ少頃クアリテ普兵モ亦此ニ来リテ朝食  
 ス同日エテイニヨリ十二里ニシテウエルヂュンニ  
 達シタリシタ翌火曜日廿午時シヤハノ方へ

車ヲ向ケテ發シタリ之ニ依テ見レバ日曜日十八  
 日ニハモゼール河ノ西ニハ唯普ノ哨騎有ルノ  
 ミニテ普王ウイルムノ軍兵ハメツツノ東十  
 里ニ在リシト見ヘタリ

メツツノ東ノ戦争

日曜日十八ノ朝佛將バゼー又ハメツツノ東五  
 里許レゼタンウ井ルレルクールセル及ヒフロ  
 チギー諸村ノ近傍ニテモビール河及ヒセル  
 河ヲニト河ヨリ分ツ高地ノ所ニ戦線ヲ定メ

タリシ此戦線十一字ニ普軍右隊ノ將タルス  
タインメツツニ攻撃セラレシカバ佛軍ハノワ  
ウ井ルオルグ及ヒマギーノ道ニ由テ次第ニメ  
ツツノ方ヘ引退キ遂ニ墨壁ノ後ニ入リタリ是  
佛軍ニハ味方ノ兵メツツノ西方ヨリ退陣スル  
ヲ掩護スルノ約アレハ固ヨリ戦ヲ好マズ唯徐  
々ニ引退キタリ普兵ニ於テハ劇シク攻撃セシ  
ヨリ其兵損失セルト尤モ多クシテサドワノ戦  
ノ損失一万人ニ及ベル劇シキニモ幾ント劣ラ

シトナリ普ノ第一番隊第七番隊第八番隊皆戦  
ニ加ハリ其兵合セテ十二万ニ及ベリ其一分隊  
半ナリ佛ノ謀計ニ陥リテシニシニリアニノ岩  
ニ誑キ寄セラレ佛將ラドミロウノ為メニ側面  
ヨリ撃レ死傷多クシテ此ノ隊(第十番隊)殆ント  
隊ヲ為シ難キ至レリ此戦ヒニハ普兵ノ死傷悉  
テ佛ヨリモ夥シカリシ

メツツノ西郊外

メツツノ東ノ方ニテ前戦劇シカリシ間ニ佛軍ハ

メツツヲ去リウエルヂユンノ方へ西ニ道ヲ取り引退  
キ行クヲ六里ニシテセントマルセル一名グ  
ベロニ至リ岐路三ツニ分レタレバ各軍モ三路  
ヨリ退キタリ其一ハレズンウ井ルビヲシウ井  
ール及ビマルスラツールニ由テウエルヂユンニ達  
シ(十四里)一ハ北ノ方ドシクール(十里)ジャルニ  
コンフラン及ビエテイシニ由テウエルヂユンニ達シ  
一ハ西南ノ方グラベロットゴルゼ及ビオシウ井  
ルニ由リマツト河ノ嶮岸ニ浴フテメツツヨリ十五

里ニシテポシタムソシノ西北十里ナルチア  
シクールノ方ニ至レリ

日曜日メツツノ西ノ戦争

佛將バゼイヌノ主意ハマツト河ニ沿フタル丘陵  
ヲ小楯ニ取り東南ヨリノ攻撃ヲ防キ三縦隊ト  
ナリテ稍並行ノ路ヲウエルヂユンノ方へ引退カ  
ントセシ然ルニ日曜日ニスタインメツフハノワ  
ウ井ル及ビクールセルニテ戦ヒシ間ニ普ノ王  
族チャールスハ其兵ヲ率ヒモゼール河ヲボシタ

海夕新開 十三  
△ーソニ於テ渡リ其軍ノ一隊佛兵トグラベ  
ロツトニ於テ戦ヒニ及ヒシカ普軍寘兵ニシテ  
志ヲ遂グル能ハザルノミナラズ北ノ方ヘ進ミ  
過キタルヨリ佛將シヤンガルニエーノ備ヘタル  
セシキヤンタンノ砦ヨリノ大砲ニ放撃セラレ其  
死傷甚タ多カリシ於是カバゼイヌハゴルゼ及  
ビオンウ井ルノ近傍ニ其防禦ノ線ヲ定メタリ  
ト

月曜日十九ノ舉動

月曜日ニバゼイヌハ障礙無ク其全軍ヲ進メ其  
左軍(即チコンフラン)ノ方ニ進メル縦隊ハド  
クールニ着シ蓋シシヤル子造オルヌ河トモ  
セル河トノ間ノ丘陵ヲ占メ其右軍ハマツト河  
ノ丘陵ヲ守衛シ中軍ハレゾンウ井ルニ進ミ哨騎  
ヲマルスラツールニ出シテ敵ノ動靜ヲ見セシ  
ムルニ既ニ此處ニ普軍ノ方ニハ十三レジメン  
トノ兵及ヒニバツテリイノ大砲ヲ備ヘタリ此  
時普將スタインメツツハメツツノ北モゼール

海夕新開 五

河ヲ渡リ東北ニ向ヘル佛ノ左軍ノ方ニ廻リ来  
レリ

此日マルスラツールニ在リシ普軍ハ必スヤ太  
子ノ率ヒタル軍勢ノシントミヒエルヨリ東北  
二十里ニ出セル一部分タラン然ラズンバチア  
ンクールノ路ニ由テ出セル王族チャーレスノ  
左翼ノ兵ノ前鋒ナルベシ何ノ兵ニモセヨ日曜  
日ノ朝ヨリ此時迄ニ此地ニ到レルハ騎兵及ビ  
砲兵ハ勿論他ノ兵ト雖モ十分ノ時限アリシ

月曜日十九 及ビ火曜日廿ノ戦争

ウエルギン及ビチランウセルヨリノ報告ニ月曜  
日十九ノ午後三字ニマルスラツールノ近傍ニ  
テゴルゼ又ハオンウ井ル邊ノ仏軍ノ戦線ニ沿  
フテ砲戦起レリ然ルニ普兵ハ翌火曜日廿迄ハ  
強テ攻撃ニ及ハザリシガ此日午前九字ヨリ日  
晩ルハ迄右軍左軍齊シク大ニ戦ヒ佛軍ニテハ  
其兵一万二千五百人ヲ失ヒ普軍ニテハ二万五  
千人ヲ失ヒシト云ヘリ  
此説ハ八月廿日我七月  
廿四日巴勒ノ官報ナリ

恐ラクハ仏國ノ方ニ偏スル者ナラン

普ノ王族チャールレスノ兵ハゴルゼヨリオンウヰル迄ノ仏ノ右軍ヲ撃チスタインメツツノ兵ハドククールヨリコンフランノ通路ヲ断チ且此兩所ヨリマルストラツールヘノ通路ヲモ断ント手配リニ及ビリ然ルニウエルダコンヘノ正路ヲ進ンデ仏ノ中軍ハマルスフツール迄障礙ナク到リ此ニテ右普國ヨリ手配リセル小軍ヲ退攘シタリ此中軍ノ縦隊中ニ仏帝ノ親衛兵アリクルガ

カンロベール之ニ將トシテ其騎兵ノ攻撃數度ニ及ヒ殊ニ劇シカリキ

水曜日ト一ノ戦争

水曜日ノ戦ヒ大抵前日ト同所ノ地ニテ引續テ有リレカ普兵ハ是日始終ホニタムーソンニ横切り来リ其一部分ハマルストラツールヲ迂路ヲ廻リテ囲繞シ其一部分ハ直チニオンウヰル及ヒゴルゼノ方ニ運動シ此地ニ於テ仏ノ右軍兩日共ニ追卻セラレゴルゼ迄到リレトナリ



ボシタムーソンヨリノ報告ニ此地ニテ水曜日  
日廿一ノ夜半ニ喇叭ノ音聞ヘ普軍次第ニ前面ノ  
方ニ進メルヲ見タルトノヲ記セリ

水曜日廿二ノ大合戦

水曜日ニ普ノ全軍南北ヨリ仙軍ノ備ヘタル地  
ニ集リ来レリ思フニ普國太子ノ率ヒタル軍ノ  
一部分ハ西南ヨリ来リシナル可シ然ルニ軍兵  
遠路ニ勞レ刺サヘ丘陵茂林等多キ地ニシテ通  
路ヲ求ムルヲ難キカ故ニ普軍マルスラツール

ノ通路ヲ遮ルヲ能ハステスタインメツツモ王  
族チヤーレスモ仏軍ノ両翼ト戦ヘル時間ニ仏  
將カンロベールノ率ヒタル親衛兵ノマルスラ  
ツールヲ過ギ行キレヲ妨グル暇ナカリレ且佛  
ノ親衛兵ハ騎兵砲兵等多キ故ニ其歩兵及ビ  
其他ノ隊ノ通行ヲ翼蔽スルヲモ容易カリシト  
ナリ此親衛兵ニ万五モレヤロンニ行キ他ノ仙兵  
モ水曜日廿一ノ木曜日廿二ノ兩日ニ之ニ次デ  
ロンニ赴キレ明白タリ

仙入ノ説ニ木曜日<sup>日</sup>廿二ニ普ノ第三ノ軍ヲ<sup>普ノ太子</sup>破リドングールノ前面ニ當レル<sup>ジャル子イノ</sup>石切場迄追卻ケレト云フ蓋シ仏軍ノ其一部分ハ路ヲ開キテ通行シ其余ハ普兵ニ其西翼ヲ撃タレ巴ムヲ得ズレテメッツノ方ヘ引返セシト見ヘタリ

木曜日<sup>日</sup>廿二ノ午時ニ普王自カラ王族<sup>チャールス</sup>ノ軍ト共ニ仏ノ右軍ノゴルゼノ前面ニ派レタル河ヲ前ニ取り新タニ備ヘタル場所ニ寄来レ

リ此軍後左軍トナ<sup>リ</sup>此時バゼイヌハ親衛兵ノマ<sup>ス</sup>スラツールヨリ發シ去レルヲ以テ其兵力弱キヲ見グラベロツト及ビレゾ<sup>ン</sup>ウ<sup>ウ</sup>井ルノ方ニ引退キ其要害ノ地ニ占據シタリシ<sup>ニ</sup>此時ニ當テ北方ニ在ル佛ノ左翼ハドンクールニ引退キレゾ<sup>ン</sup>ウ<sup>ウ</sup>井ルノ戦線ノ内ニ入り普將<sup>スタインメッツ</sup>ノ軍ニ對シテ西北及ヒ北方ニ向ヘリ又スタインメツツハ敵軍トメッツノ間ニ進ミ入りテ其通路ヲ断タン<sup>ト</sup>ヲ勉メタリ此時間ニマル<sup>ス</sup>ラツール<sup>近</sup>

傍ニ備ヘタル普兵ハ佛ノ中軍既ニウエルヂユン  
 ノ方ヘ経過セシカハ正路ヨリ東ヲ望ンテ進ム  
 下ヲ得タリ此軍ハ此夕ニウ井オニウ井ルニ到着セ  
 シカハ普王及ヒ其スタツフ軍中ノ雜務官驚キテ援兵ト  
 シテ太子ノ来リシニヤト向フニ至レ川又如何  
 ナル軍勢ニテモバゼーヌヲグラブロット近傍  
 ノ要害ノ地ヨリ駆逐スル下能ハサルベシサレ  
 トモスタインメツツハメツツノ方ニ其全軍ヲ  
 繰出シ佛ノ右軍及ヒ後軍ヲ撃チ漸ヤクニシテ

バセーヌヲシテ夕八時四十分ニ其全軍ヲ引拂  
 ハシムル下ヲ得タリ佛兵ハ此退軍ニ命令能ク  
 整ヒテメツツノ方ヘ退キタリ

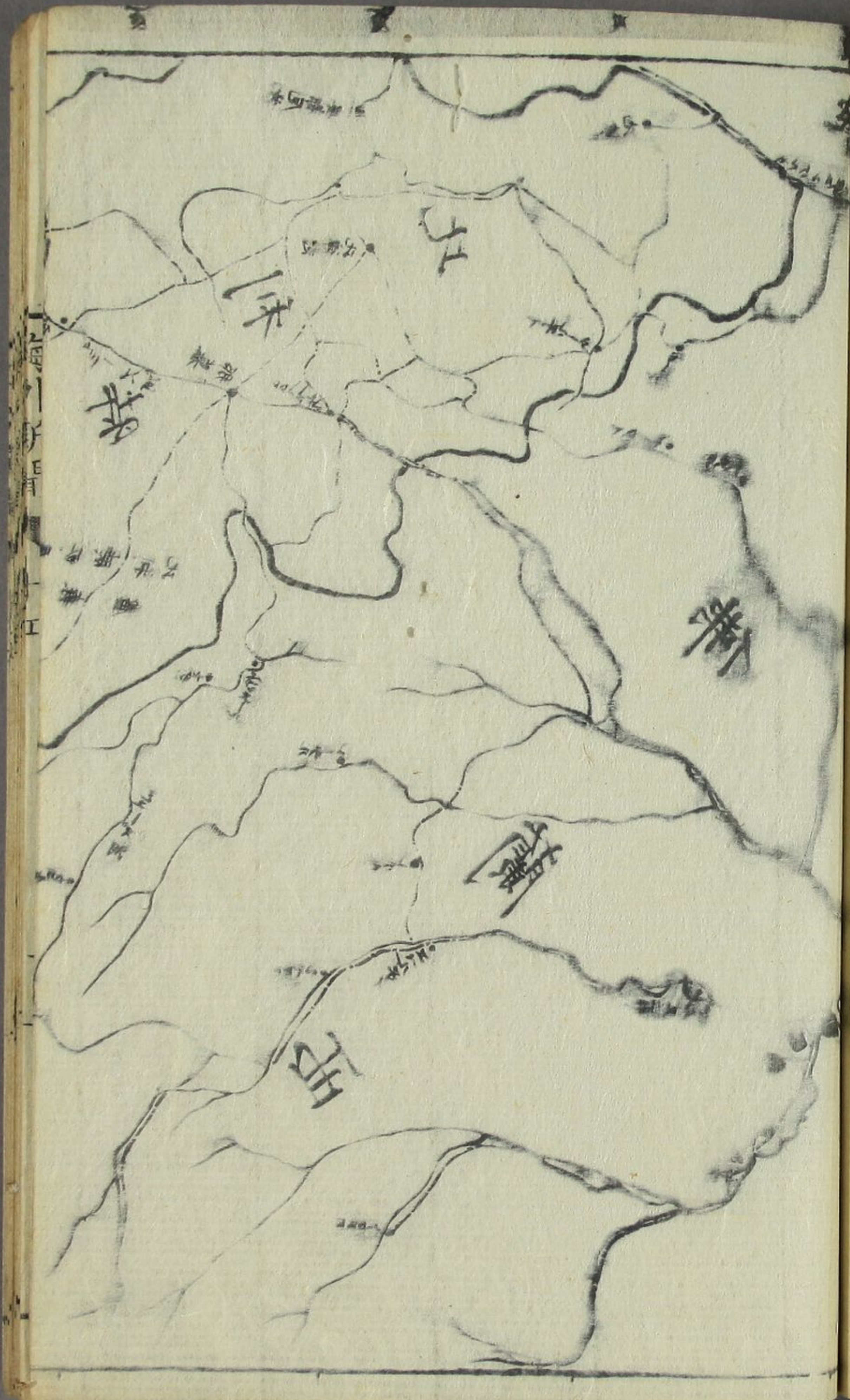
此一週間兵士ノ損失

此時佛軍ノ損失未ダ其詳カナルヲ知ラザレド  
 モ倫敦ヨリノ報告ニ依レハ其死傷凡五萬人ニ  
 モ及ヒタリト又普軍ハ佛ノ嚴ニ壘柵ヲ設ケ或  
 ハ堅固ニ備ヘタル場所ヲ攻撃シ兵器ノ利害モ  
 優劣無クシテ其兵ヲ敵ノ彈丸ノ達スル地迄迫

リ進メシト一度ナラザレハ其死傷ハ佛ヨリモ  
多カルヘシトナリ然レトモ日曜日ノ戦ヲ普王  
ハサドワノ戦ニ比セシヲ以テ考フル時ハ普兵  
ノ死傷一萬ニ下ラザルベシ月曜日ノ戦ハ未タ  
其確報ヲ得ザレ氏亦五千ハ失タルベシ佛ノ  
官報ニ火曜日ニ普ノ死傷二萬五千ニシテ味  
方ノ死傷ニ倍セリト云ヘリ但シ佛ノ死傷ハ一  
萬二千五百人ナリト稱セシ小曜日ノ劇戦ニハ  
十二里ノ戦線ヲ亘リテハ合戦ナレハ死傷今迄

ヨリハ殊ニ多カルベシ普王ウヰルレムノ報告  
状ニ此日ノ死傷四万人アリシト此死傷ハ普軍  
ノ一ナリヤ又ハ仏軍ノ一ナリヤ又ハ兩軍ヲ合  
セテ數ヘルニヤ未タ詳カナラザレトモ若シ其  
味方ノ死傷ヲ云ヒシナラハ普ノ死傷總計八万  
人ニ至リシナルベシ若シ又仏兵ノ損失ヲ指セ  
ル者ナラハ其一週間ノ損失ノ總計五万人ヨリ  
更ニ多カルベシ

伯靈ヨリ電信機ノ報告ニスタインメツツ及ビ王



海外新聞  
族 チャーレスノ軍勢総計三十四万八千人其内第一番隊第七番隊第八番隊第九番隊ハスタインメッツニ属シ第二番隊第三番隊第四番隊第十番隊第十二番隊及ビサクソニ國ノ兵ハチャーレスニ属シ普ノ太子ヨリ將ニ来サントスルノ援兵ハ之ヲ計數ノ外ニ置ケリ此兩軍中ニテ今現ニ戦ヒノ用ニ充ヘキ者二十五万人ニ減シタリト云フ

海外新聞十三号終

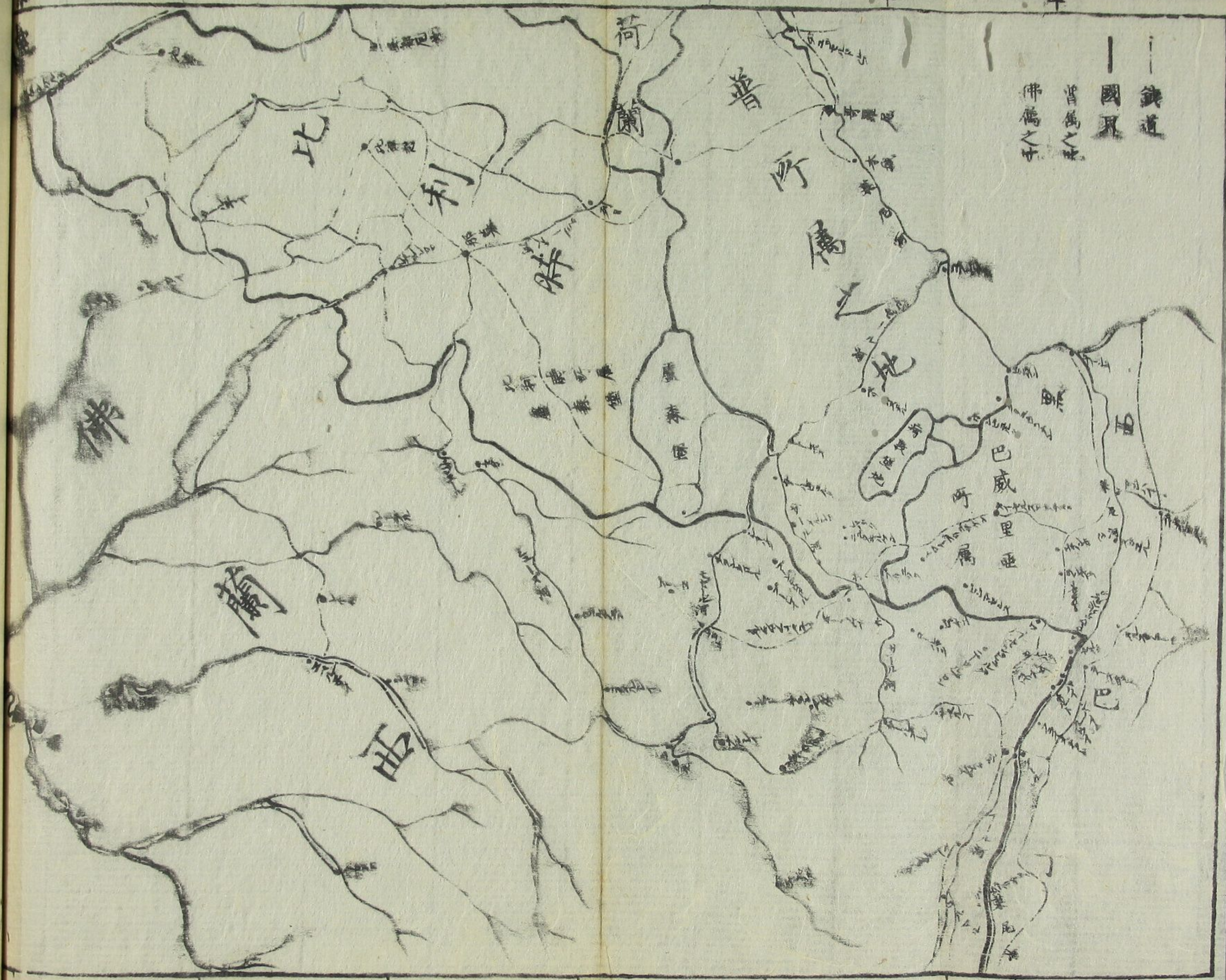


海外新聞十四号

千八百七十年八月廿七日 我九月三日 横濱刊行  
 デイリ、アドヘルタイセル 新聞第二百九号  
 ヨリ抄譯ス

第八月十八日 我七月廿二日 佛帝拿破崙シヤロシニ  
 退陣シケル時浮薄ノ仏人拿破崙迅速ニ普軍ヲ  
 撃タズシテ此敗衄ヲ取レルヲ惡シ其街衢  
 ヲ過ギリシ時之ヲ指シテ罵リタリ  
 普ノ太子ハ意外ノ勝利ヲ獲仏將マクマホンヲ

海外新聞 一四



海外新聞十四号

千八百七十年八月廿七日

我九月三日 横濱刊行

デイリ、アドヘルタイセル 新聞第二百九号

ヨリ抄譯ス

追テ西行シ同廿日我七月廿四日遂ニ迫リテシヤロン  
 ノ府前ニ於テ接戦ニ及ビシガマクマホシ復敗  
 績シテ翌日此府ヲ退去シ仏帝及ビ仏ノ太子モ  
 亦相隨テレームス近傍ノクールセルニ退去シ  
 タリ此戦ニ仏ノミトレイリユウヅ砲ニ觸レテ  
 普兵ノ損失凡ソ一万二千五百人ニ及ビ仏兵ハ  
 八月廿一日我七月廿五日迄一週間ノ損失凡ソ五万人  
 ナリトソ  
 普ノ太子ノ率フル軍ノ分遣隊ハストラスブー

ルヲ圍ミシカドモ軍備缺乏ノ故ヲ以テ此府ノ  
 通路ヲ絶ツテ能ハザリシカ普將ウエルデルナ  
 ル者兵三万八千人ヲ率ヒ砲庫攻具等ヲ用意シ  
 八月廿日我七月廿四日此地ニ来着セシヨリストラス  
 ブールニ於テハ甚タ恐慄シタリ然シテ此府ノ  
 書庫兵火ニ罹リ且旅客ノ奇觀トセシ壯麗ノ寺  
 院モ大砲ノ為メニ敗壞シ城兵數出テ戦ヒシト  
 雖モ毎戦敗ヲ取テ引退キタリ  
 メツモ亦攻メ圍ミレシガストラスブールニ比



スレバ其困難更ニ甚シカリシ其故ハストラス  
ブルルハ糧食十分ナリシカメツツハ糧食乏シ  
クシテ困ミヲ受ルノ初ヨリ士民ノ食料平常ノ  
半バヲ減ス此ノ如キ景状ナレバ若クハホ  
ノ来リ救フニ非ザレハ此都府勢ヒ降ラザルヲ  
得ス多クハマクハホノ来リ救フ一有ルベシ  
トナリ  
ククマホンハシヤロシヲ退去シテアルデン子  
スノ傍ナル深林中ニ逃レシガメツツノ危急ヲ

聞シヨリウエルジュン及ヒヒントノジイヲ經テ北  
路ヨリ進ニメツツノ守將バゼーヌヲ援ントセリ普  
ノ太子ハマクマホンノ十七万ノ兵ヲ率ヒテ此地  
ニ来ラントスルヲ知ラサリシカバ八月廿二日  
我七月巴勒ヲ指シテ進ム可キノ王命ヲ受ケ將  
ニ發行セシトスル時ニ方リクマホンノ来援  
スベキ意有ルヲ看破セシヨリ仙軍ノ舉動ニ注  
意センカ為四日間巴勒ニ行クヲ延引セリ  
普軍ハ巴勒ニ勇進シ一万ノ兵ヲ分チ巴勒ノ通

路ヲ斷テ十六万ノ兵ハ巴勒府ヲ攻テ砲臺堡砦  
等ヲ下サシテ謀リタリ

仏ニテハバクマホンシヤロンヲ去リシ時北方  
ニ退避シテ路ヲ開キ普ノ太子ヲ遣リ過シ然シ  
テ後普軍ノ背後ヨリ攻メ破ラントスルノ軍議  
ナリ然レトモ普ノ太子再ヒバクマホンヲ撃シガ  
為ニ其行軍ノ方向ヲ北ニ轉セシカハ此策遂ニ  
行ハレサリシ

ムツコ困ミシ普將ヌタインムツハクマホン

ノバゼーヌニ應援スルヲ拒ント大ニ民兵ヲム  
ツニ備ヘ以テ追撃ヲ防キ北方ニ赴キタリ此時  
マクマホンハ北路ヨリムツニ達セント欲シレ  
ゼールヨリステミイ迄軍ヲ張リメジイルセダン  
及ヒモントメジイニ傍ヒベルグユムノ國界  
ヲ背ニ取テ進ミ来レリ  
普ノ王族フレデリッキ・チャレスハ普太子ト路ヲ分  
ケ並テ巴勒ノ方ニ軍ヲ進メタリシガ太子ヨリ  
一二日前ニ北方ニ軍シ方向ヲ轉シテ八月廿八

日 我八月 二日 二日 三三イノ方ニ進ミタリ此時ステ  
イシメツツノ率ビタル普兵ハ仙ノ左軍ノ形状  
ヲ窺察センカ為ニジユント云ヘル要地ニ備ヘ  
タリ

八月三十日 我八月 四日 二日 普ノ騎兵仙ノ前衛ト争端  
ヲ起シ劇戦ニ至リシカ仙軍遂ニ退去シ普軍ハ  
セダントジフンウイルトノ間ニ在ル鉄道通路  
ノ傍ナル小府カリナニヲ奪ヒタリ同日仙普本  
軍再ヒ大戦ニ及ヒシカ普ノ太子ハ此間ニ王族

フレデリツキ、チャアレスノ兵ト合シテ其勢愈振ヒ  
タリシ

マクマホンモントメジノ方ニ進ントセシヲ  
普軍通路ヲ遮リテ大ニ之ヲ破リベルヂウムノ  
境辺ニ追撃シ兵器糧食等ヲ奪ヒシガ黄昏ニ向  
ヒシヲ以テ戦ヲ休メタリ夜半ニ至リテ兩軍ノ  
援兵四集シケレハ翌三十日ノ昧且ヨリ再ヒ兵  
ヲ交ヘ終日戦野ニ及ヒシニマクマホンノ軍遂  
ニ敗北シテセダンニ引退キタリ是ヨリ先キニ

マクマホンハ普兵ノ為メニ攻撃セラレ戦線ノ  
西端ヨリ其軍ヲ退ク可キ景况ニ至リシカハ南  
北両道ヨリモメツツヲ援フテ能ハザリシ  
此時ノ諸軍布陣ノ位置大畧ヲ述ルニ佛將バゼ  
ーヌハ其兵ト共ニメツツニ在リ又マクマホンハ  
セダンニ在リ普王イルレムハバアールヂユクニ  
在リ普ノ太子及ヒ王族フレデリック、チャアレスハ  
南ノ戦線ヨリマクマホンニ對シスタインメツツ  
ハ北路ニ在リテバゼーヌトマクマホントノ兩

軍ノ間ニ在リ佛ノ太子ハメイジイルニ在リ仏  
帝ハセダンニ在リシ  
普ノ困ミヲ受タルメツツ及ヒストラスブールノ  
地ハ其保ヲ得可キ一ニ日ノ外ニ出サル可シ  
トノ巷説アリ加<sup>カミマ</sup>之メツツノ府中ニハ悪疫流行シ  
テ兵士土民ニ至ルマテ都テ之ニ感染セザル者  
少ナシ又ストラスブールノ府中ニハ食料缺乏  
シテ人民馬肉ヲ食フニ至リ馬鈴薯<sup>ジャガイモ</sup>ノ價一斤ニ  
十フランクニ及ヒ人民害中ニ住ムノ困難ニ迫

海小所聞  
一四

レリト雖モ其主將ゼ子ラールユルレックハ死ヲ  
決シテ降ヲ肯セザリシ普兵ハ百六十ホンドノ  
砲ヲ備ヘ日ニ府中ニ放散シテ全府ヲ敗壞セシ  
トシタリ  
巴勒ニテハ普兵ニ囲マレントテ恐レテ其預備  
ニ及ヒ仏帝ニハ府ニ在ラスゼ子ラールトロシウ  
代リテ之ヲ監督シ命ヲ下シテ專ラ防禦ノ用意  
ヲ為シ鶏豚馬鈴薯麥粉等都テ長圍ヲ受ルニ堪  
フ可キ諸物ヲ城中ニ搬運シ敵兵ニ遮蔽ノ要地

ヲ占メラレザランカ為メニボアードブルギユ  
ウ巴勒郊外ノノ樹木ヲ伐取リタリ  
リウテルノ傳信線ノ報告

第九月三日 我八月 倫敦ヨリ普王其妃ニ傳信線  
ヲ以テセル金曜日 我八月 報告ニ仏將マクマ  
ホン割ヲ被リシヨリ副將ゼ子ラールウインプフ  
レットト降服ノ議ヲ定メシカハセダンノ全軍悉  
ク生擒トナレリ又佛帝ハ此時目ヲ兵ヲ率ヒテ  
戦ヒニ臨メルナク巴勒ノ事務ハ悉ク監督ニ

任セ置ケルヲ以テ單身ニシテ来テ我ニ降レリ  
今我將ニ之ト會セントス相會スルノ後之ヲ置  
ルノ地ハ一定ス可シトナリ  
第九月四日我八月巴勒ヨリ仏ノミニスール其  
民ニ布告スル辞ニマクマホン普ノ三十万ノ兵  
ト三日間戦ヒ我兵四千人生擒セラレマクマホ  
ン割ヲ被リシニ因テゼ子ラールウインブフレット  
之ニ代リ降服ノ約ヲ定メ帝ハ戦中ニ生擒セラ  
レタリト又此ノ如キ國難ニ及フト雖モ仏國ノ

國勢ハ猶依然トシテ衰ヘス巴勒ハ已ニ防禦ノ  
用意ヲ為セシカ一二日ノ中ニハ新兵モ亦必ス  
巴勒ノ城壘下ニ集ル可シ他ノ兵ハロアル河ノ  
岸ニ備ヘ政府ニテハ十分ニ力ヲ尽シテ重大ノ  
事件ニ適當ナル所置ヲ施シタリ  
第九月四日我八月巴勒ヨリ土曜日我八月ノ夜  
半ニ下議院ノ集會有リテコフアントパリカヲハ  
帝ノ生擒セラレ及ヒマクマホンノ敗北シタル  
トヲ衆人ニ告ケ執政ヲシテ後來國事ノ處置ヲ

熟按セシメシガ為メ翌午時マテ會期ヲ延ス可  
キ旨ヲ陣述シタリ又ジュウルスハアブルハ帝ノ  
家筋ノ政權ヲ奪ヒ新々ニ下議院ニ命シテ敵ヲ  
境外ニ追攘ス可キノ任ヲ授與シトロレウヲ以  
テ巴勒ノ總督ト為ス可キ議ヲ演ヘレガ衆人皆  
默然トシテ此議ニ從ハリ翌日五字ニ又集會ア  
リ  
第九月四日我八月九日倫敦ヨリ仁帝拿破崙破崙ハ夥多  
ノ從者ト共ニ普將ニ護衛セラレベルヂウムヲ過

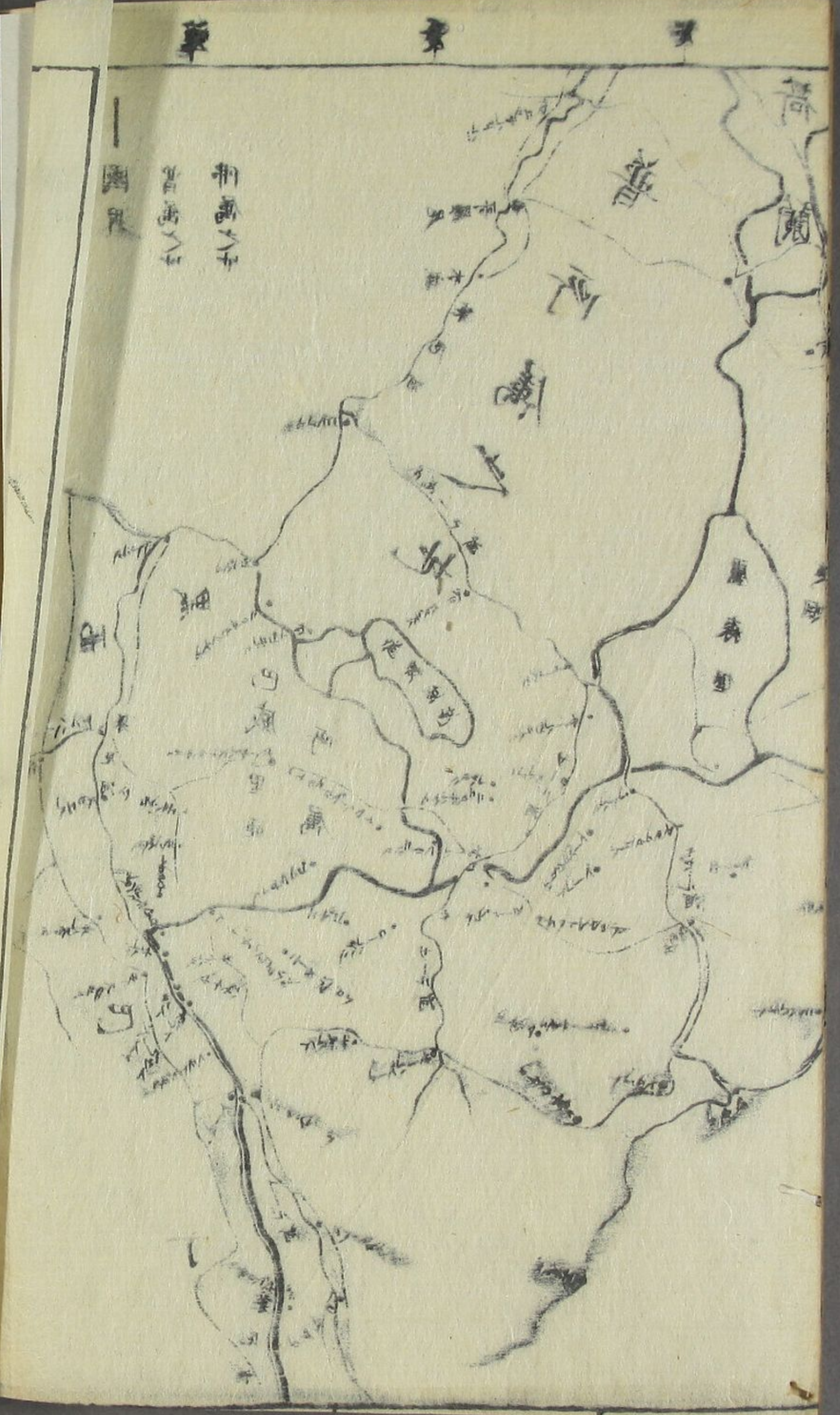
キテ日耳曼ノ方へ送ラレタリ



海外新聞一四号畢

海外新聞 十四





海外新聞十五号

千八百七十年第九月朔日 我八月六日 米利堅

方西斯哥每週刊行新聞ヨリ抄譯ス

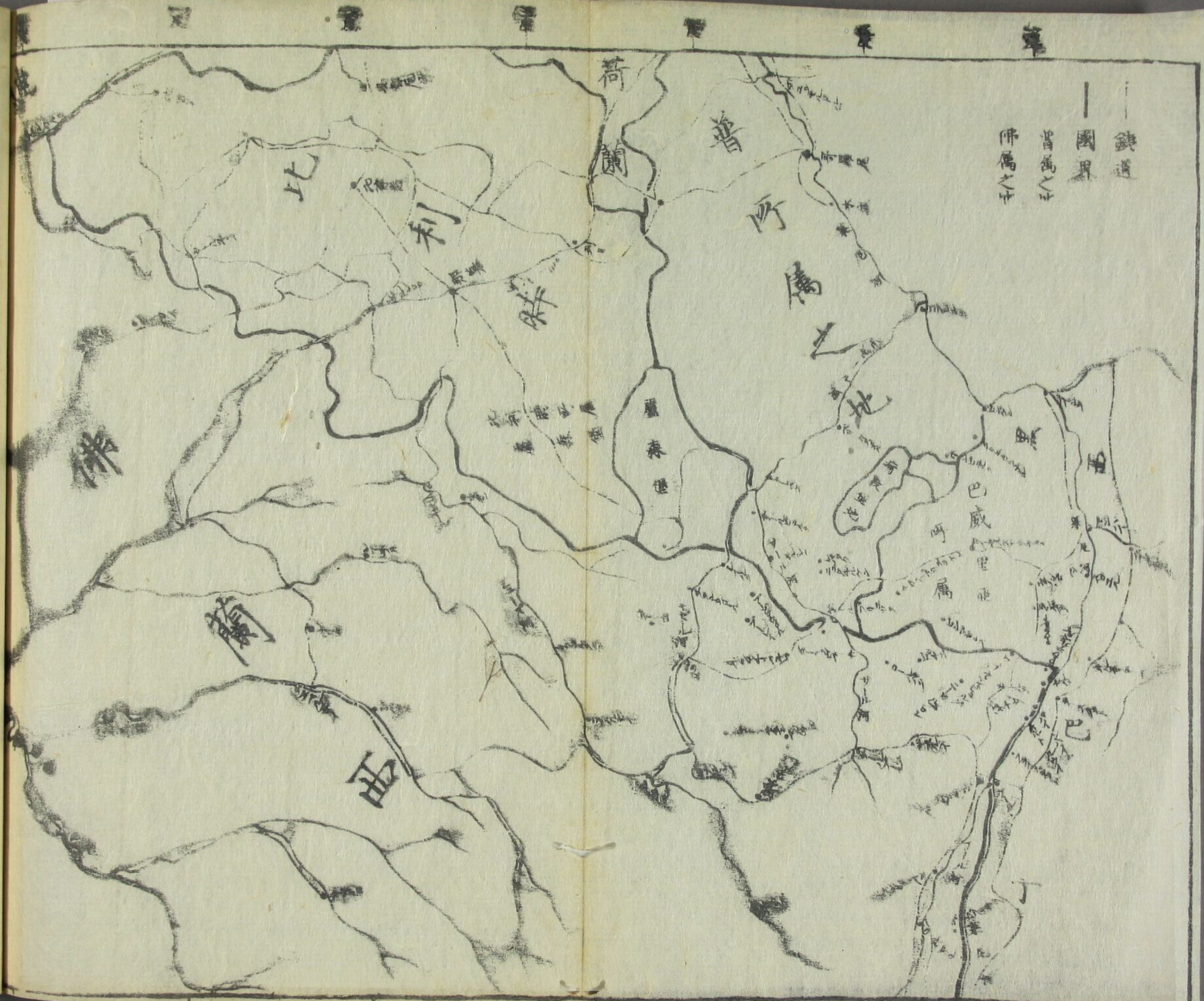
チヤイ子名号ノ蒸氣飛脚船到着ニ付左ノ報告  
ヲ得タリ

七月三十一日 我七月四日 泊靈府ヨリ日耳漫官報ニ

仏軍サールブリュックヲ嚴フトリ其勢普軍ニ倍

スト雖モ遂ニ戦ヒ利アラズテ敗走セリ

普王ハ七月三十一日 我七月四日 自ラ戦場ニ臨ント



海外新聞十五号

千八百七十年第九月朔日 我八月米利堅

方西斯哥每週刊行新聞ヨリ抄譯ス

子イ子名号ノ蒸氣船内航到著ニ付左ノ報告

シテ伯靈ヲ發シタリ

八月二日我七月六日巴勒ヨリマツヨリノ官報ニ

軍ハ攻撃法ヲ以テ普國ニ攻メ入りサールブリ

ユックヲ嚴クテ之ヲ畧シタル旨ヲ記セリ拿破崙

皇后イユゼニーニ傳信機ヲ以テ報ジタル文ニ太

子ローイスハ奮發勇氣ヲ出シテ初陣ニ及ビ其

將フロツサルトハサールブリユック左岸ノ高處

ヲ占メ普兵ト暫時抗戦セシガ我第一ノ横隊ニ

加ハリタリシ時ニ敵ニハ大小銃ヲ放ツ熾ニシ

テ彈丸皆我が陣中ニ迸落セシニ此時太子ハ自

若トシテ更ニ恐怖ノ色無ク幸ニ其彈丸ヲ免レ

テ軍中ヲ指麾セリ我兵之ヲ見テ其勇ニ驚キ感

涙ヲ流サシル者ナカリシ此戦ニ味方ノ士官一

人兵卒十人ヲ凶ヒシモサールブリユックハ遂ニ

灰燼トナレリ

八月四日我七月八日メウルス落部ノ内ウエッセン

ルグニ於テ劇戦アリシガ普國ノ太子フレデリ

キ・ウイレルム普軍ヲ指麾シテ大ニ仙軍ヲ敗リタ

官報ニ本日普仏兩軍ノ戰爭ハ實ニ酷烈無双ノ  
難戰ニシテ兩軍優劣ナク比類ナキ兵力ヲ以テ  
血戰ニ及ビシガ終リニ至リ仏軍遂ニ利ヲ失ヒ  
陣ヲ棄テ、潰散敗走セリ

普軍ハ今モゼールノ山谷ニ於テ攻撃ノ方畧ヲ  
運ラシコブレントツノ南北ヲ距ル一七十五里ニ  
シテトレベスニ本營ヲ構ヘ仏軍ノ本營ヲラン  
ウエユールニ向テ攻メ寄ントノ結構ナリ

普軍萃テ國境ヲ出テ、行軍ヲ始メタリ

八月五日我七月普軍ニ属スル巴維里亞兵隊第

五及ヒ第十一コルプス隊ハゲノールノ高所ヲ襲

撃シ苦戰シテ後チ敵ヲ陣外ニ驅逐セリ

佛兵ハ將ドールエーノ指麾ヲ受ケ猛ニ拒戦ニ及

ビルカ不幸ニシテ其將ドールエー戰死セシヨリ

勢ヒ衰落シ隊伍動乱シテ終ニ逃走シタリ此時

普軍ニ於テハ囚虜五百五十人大砲一門ヲ奪掠

セリ

八月六日 我七月十日 普ノ王族フレデリック王子  
 レスウールトニ於テ佛將マクマホンヲ敗リ普  
 兵ニ於テハ加農三十門トライレウス 新發明四  
 門國旗二本ヲ奪ヒ兵四千ヲ生擒シタリ其日  
 ノ戦争午前九字ヨリ始マリ午後四字ニ至ル迄  
 劇シク闘戦シ佛軍又総敗軍トナリテ退去セリ  
 八月七日 我七月十一日 伯靈ヨリ佛將フロツサルドノ麾  
 下ニ属セル佛軍ノ中央ハ普ノリウテナントセ  
 子ラールホンゴイベンノ為メニサールブリユツ

クノ近傍ニテ攻撃ヲ受ケ佛軍高所ヲ占メタリ  
 カ日耳曼ノ兵撃テ遂ニ之ヲ領シタリ  
 普軍勝ニ乗シテ尾撃シ佛軍ハ乱レテ隊ヲ改整  
 スル能ハス総敗軍トナリテ遁走シタリ  
 八月八日 我七月十二日 巴勒ノ新聞ニ佛將バゼー又指  
 麾官総督ニ命セラレタリ  
 八月八日 我七月十二日 倫敦ヨリ普ノ太子ハ敵ノ通路  
 并ニ援兵ノ道ヲ断ンカ為メニ尚續テマクマホ  
 ンヲ追撃シ且普將スタインメツツハフロツサルト

海外新聞  
 十五

ヲ追逐セリ  
普兵云フ其夜戰場ニ臨ミタル我軍ハ凡ツ八十  
万ニ及ヒタリト  
八月九日我七月十三日伯靈ニ於テ公行セル官報ニ近  
時ウールトノ戦争ニ佛軍ハ死傷五千人ニ至リ普  
軍ハ損亡大約三千人ナリト  
マクマホン麾下ノ佛軍ハ退去ニ及ヘル時勝誇  
タル普軍ノ為メニ陣營及ヒ輜重ヲ盡ク奪掠セ  
ラレタリ

八月九日我七月十三日倫敦ヨリ我等巴勒ヨリ佛國ハ  
既ニ傾覆ノ危急ニ切迫セリトノ確説ヲ得タリ  
シガ佛帝ハ己ニ敗軍セシト思ハレタリ日耳曼  
軍近日巴勒ニ向テ進發ス可シ恐クハ日耳曼軍  
ノ進行縱令遲延スル氏佛國ノハフルノ日ハハ  
ヤ近キニ在ル可シト  
佛國ヲルレアン党及ヒ共和政治黨既ニ議論ヲ  
生シタリ畢竟佛帝師ヲ起スト雖モ之ヲ支フル  
ノ方畧無キヲ以テ別ニ一時新政府ヲ設ケン

ヲ企テ佛國議院ニ於テ頻ニ之ヲ論述ニ及ビタ  
リ  
佛國皇帝ノ徒ノ貴族ハ國ヲ離散シ又佛帝ノ親  
友等ハ皇后及ヒ太子ノ遁走ニ就キ隨ント頻ニ  
其用意ヲ為セリ

又ノ報告ニ普ノ王族フレデリツキチャールス  
ハ普ノ弟ニコルフス隊ヲ率ヒテメツツトナン  
シノ間ニテ佛軍ノ中央ヲ破リタリト云フ

八月十日 我七月十四日 巴勒新聞ニ宰相ヲリビエーハ

ゼ子ヲールコীগンテモンテベロノ為メニ職  
ヲ辞スルニ至レリコイントパリコ一ハ軍事宰  
相ニ命セラレ並ニ新執政ヲ任セラル可キノ命  
ヲ受タリ

昨日佛ノ下議院外ニ寂ヒ驚クベキノ一揆起リ  
宰相タルヲリビエーニ向テ辭職ス可キ旨ヲ高  
聲ニ罵リタリ因テヲリビエーニハ兵威ヲ以テ  
之ヲ脅ヒシカハ一揆即チ退去セリ而ノ其平和  
ヲ計ランガ為メ兵隊ヲシテ其内ニ間諜ヲ入レ

置キタリ

昨日議院ノ會議ニ於テ會社中ニ頗ル激論アリ  
タリシ

又下議院ニ於テジュール、ハーブル國ヲ安全ニ  
成サシガ為メ議院ニ於テ全權ヲ握ル可キ旨ヲ  
發言シ且ツ佛帝軍ヲ指揮スルノ器量無キヲ已  
ニ判然タレハ之ヲ引戻ス可キ旨ヲ弁論セリ此  
時議院中紛然トシテ騷擾ヲ生シ議員互ニ自己  
ノ論ヲ主張シ歎々トシテ之ヲ聴取ル下能ハザ

リシ

パウルク、カツサクナツク遂ニ衆人ヲ鎮壓シ聴カ  
シメテ曰ヘラク余若シ宰相ノ職ニ在ルハハ  
ーブル及ヒ左方ノ會社ヲ糾問シ且此夜ノ中ニ  
彼等ヲ銃殺スベシト時ニジュール、シモン何故  
會社ヲ銃殺スルヤト詰問セシガヲリビエー怒  
テ之カ答ヘニ及ヒタレハ更ニ其聲ヲ聴取ル  
能ハサリシト然ルニ又之カ為ニ大騷擾ヲ生ス  
デケラルトリ議院ニ發言セシハ第三拿破崙ハ



一千八百十五年ニ第一拿破崙ヲ處置セシ時ノ  
例ニ據リテ區處ス可キ旨論述セシカバ於是再  
ヒ又騷擾ヲ醸シ議負各互ニ相争ヒ宰相ニ至ル  
マテ其鬪争ニ加ハリタリ因テフリビエーニハ  
退出ノ暇マラ乞ヒシニ議負之ヲ支ヘシカハ直  
チニ去リテ皇后ノ許ニ至レリト

倫敦新聞ヨリ

八月十日 我七月 拿破崙ノツツニ於テ病ニ卧タリ  
普軍スタラスブルヲ圍ミ佛兵ニ降ラシメテ  
促シタリシガ仏兵之ヲ肯ンセザリシヨリ直チ  
ニ此府ヲ放火シ家屋數軒ヲ破却セリ  
佛ノ船隊ハ波羅的海ニ到着シ日耳曼ノ北西海  
岸ヲ圍繞シタリ  
ナンシー及ヒリュ子ポールハ普軍之ヲ領畧セリ  
八月十五日 我七月 我七月 近傍ノグラヘロツトニ於

テ大戦アリシガ佛將バゼーヌハ普將スタイン  
メツノ為メニ大ニ敗ラレ六字間鬪戦シテ後メ  
ツニ引退キシカハ普軍之ヲ追テ城砦ノ外郭ニ  
迫リ大ニ苦戦シテ退キシメツツハ今普軍ノ為メ  
ニ圍マレタリ

八月十六日我七月廿一日ナンシーヨリ僅カ北東ナル  
小府マルサラ城ハ頗ル要害堅固ナリシカ氏暫  
時砲戦ノ後普軍ニ属セル巴維里亞兵隊ノ為メ  
ニ奪掠セラレ加農六十門ヲ失フニ至レリ

八月十六日我七月廿一日スタラスブルノ守兵出戦  
ニ及ビシカ兵卒ヲ僅カニ傷メ加農三門ヲ失ヒ  
テ引退キタリ

八月十六日我七月廿一日リウテナント、ゼ子ラルアル  
ヘンスレベン、麾下ノ普軍ウエルヂエニノ方位  
ニ敵ヲ追撃シテメツツノ西方ニ進ミタリ  
佛將ハダニカンカンロニールガ指麾セル預備  
兵及ビフロツサルドノ親衛兵ト普ノ王族フレ  
デリッキ、チヤールスノ指麾セル第八番隊第九番

隊ノ一部ノ援應ヲ得タル十番隊トノ間タニ大  
血戦有リシガ此時佛軍頗ブル衆レト雖ドモ十  
二時間劇戦シテ後ヲ遂ニマツマデ退卻セラレ  
タリ

巴勒ハ圍ミテ受ル防禦ノ準備ヲ為シ守兵ハ擧  
テ昼夜蒸包ヲ製造シ八月廿日ニ八大砲一千門  
ヲ礮臺ニ備フルニ至リシカ之ヲ使用スル兵皆  
不熟タル可シト佛將メリノハ衛兵ヲ指揮シ且  
ツ三萬クヲ以テ昼夜城砦ヲ修繕シ又佛將ト口

レハ巴勒ノ奉行ニ任ジタリ

普ニテ此度希望スル所ノ條件ハ第一普王ウイ

ルレムヲ立テ日耳曼帝タル可キ事第二スタラ

スブルノ府ト共ニアルサス州ヲバーデンノ

公國ニ與フ可キ事第三佛帝拿破崙ヲ廢シテフ

ルボン一族ノ者ヲ仏王ノ位ニ立ツ可キ事英及

ヒ日ノ心中ニモ皆此事ヲ欲レタリシ

八月十七日同十八日我七月廿二レゾンウイ

ルニ於テ大合戦アリテ普軍ハ國王自ラ之ヲ指

摩レ佛軍ニハバゼーヌ之ガ将トナリテ戦ヒ双  
方奮戦ニ及ビレガ第二日目ノ日暮ニ至リテ仏  
勢遂ニ惣敗軍トテリ双方ノ死傷四萬人ニ越  
リト

バルスブルル、守兵ハ敵ニ降レリ

八月廿五日我ヒ月佛将マクマホンハレヤロン  
ニ於テ城砦ヲ設ケタル陣營ヲ棄テ且ツ之ヲ破  
壞シテレームニ退キタリ  
ツールノ守兵ハ猛ニ抗戦ニ及ビレカバ此地ヲ

環攻セル普兵過半ハ引退キタリ普ノ太子シヤ  
ロニニ到着セリ

普ノ王族及ビホンスタインツノ軍十分ニ入  
ツヲ圃ニ此地一於ケルバゼーヌノ陣營ヲ全ク  
取リ卷キタリ又レソソウイルニ於テ仏兵ノ死傷  
二万三千人ニ及ベリト

普軍スタラスブルルノ砲戦ハ嚴シク攻メ掛ン  
ノ所為ニシテ重大ノ攻城砲ヲ具ヘ且其軍ハ  
ル河ノ行路ヲ変シ以テ城湟ヲ干シ盡サント

企計ナリシ恐クハ此府遠カラス瓦解ニ及ベル  
ナラン

八月廿五日 我七月廿九日 ニウ井トリ府ハ普軍ニ降リ

其兵一千二百人彈藥武器等ニ至ルマテ悉ク渡

シタリ同日普軍ユラン隊ノ出戦隊出テシヤロ

ント巴勒トノ間ニ在ル府ノ近傍ニテ仏ノ一分

隊ヲ襲ヒ衛兵ノ二大隊ヲ敗リ兵卒士官十七人

ヲ擒ニシ大砲十六門ヲ奪掠シタリ

八月廿八日 我八月一日 ニ普軍ウエルチユンヲ襲ヒ

シガ仏軍防テ之ヲ退卻シタリ

八月廿九日 我八月三日 倫敦ヨリノ報告ニマクマホ

シハ本月廿八日ウエルチユンノ近傍ニテ普國太

子ノ為メニ敗ラレシガ其戦争續テ尚カレウイ

ールトアルダレヌトノ間ニ在リト普軍ハ曾テ

ハゼーヌヲ撃シ時ト同シクマクマホンノ側面

ニ出ント其舉動ヲ轉運シタリシ備兩軍ノ配陣

ハマクマホニ於テハレテルヨリスステ子

一迄ノ一線ヲ領シ以テ後方此利時ノ境界タル

メジレスセタン及ヒモニメジヲ聲援シ又巴勒  
ニ進ントセル普軍ハステ子トヨリトロハイエ  
ニ兵ヲ張り其方向ヲ變シテ西ニ進マステ北  
ニ進ミタリトロハイエ周圀ノ普軍ハロミリノ  
方ニ向テ進ミシヤロン周圀ノ兵ハシユイツル  
ニ向テ進ミ又ステ子トワテニスノ間ニ在ル  
兵ハグラシブレ及ヒブリーエールニ接シテレテ  
ルノ方ニ進シタリ但シ普ノ強兵ニ於テハ本營ヲ  
ジユニニ構マヘ以テステ子トニ於テマクマホ

ニノ左方ヲ注目セリ

備又普ノ強軍縦隊ハリユ子ウイール及ヒジヨ  
アンウイールヨリゼインギバエルニ進ミシガ  
普王ノ本陣ヲ昨日其地ニ据ヘタル趣キノ報ヲ  
得タリ

普軍ノ計畧ハ往ニバゼー又ヲ破リシ如クマク  
マホンヲ敗リシ後巴勒ニ赴カントノ企テナリ

ヘニアニ黨ノゼ子ラールヲ子ール及ヒコロ子

ルレヨンブラウン局外中立ノ法ヲ犯シタルヨ  
 リ合衆國ニ於テ囚虜セラレウインドソルニ於  
 テ五年囚獄ノ罰ヲ受ケタリ  
 米利堅ノアドミラルハラガットハ八月十四日  
 我七月十九日ボルツマウスニ於テ死去シタリ  
 米利堅前執政レフォルド五大洲ヲ周遊セント  
 九月一日我八月六日チヤイナ名號ノ蒸氣船ニ駕シ  
 テ東方西斯哥ヲ出帆セリ  
 海外新聞十五号畢

御用御書物所

東京本町四丁目

紀伊國屋源兵衛

藏版

